

平成 1 9 年度業務実績報告書

平成 2 0 年 6 月
独立行政法人国立美術館

目 次

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
所蔵作品展	3
企画展	5
巡回展	6
東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	8
公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館)	8
新しい芸術表現への取組み	8
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	10
情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	10
美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	11
(4) 国民の美的感性の育成	13
幅広い学習機会の提供	13
ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	15
映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	17
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	17
(6) 快適な観覧環境の提供	21
高齢者、身体障害者、外国人等への対応	21
展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	22
入場料金、開館時間等の弾力化	22
キャンパスメンバーズ制度の実施	24
ミュージアムショップ、レストラン等の充実	24
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	24
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	26
収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	26
保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	27
(3) 所蔵作品の修理・修復	28
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	29
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	33
研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	33
所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	40
(2) 国内外の美術館等との連携	41
シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	41
我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	44
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	45
(4) 所蔵作品の貸与等	45
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	46
美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	46
先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	46
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	47
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	47
企画展・上映会等の共同主催と共同研究	47
キュレーター研修	48
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	48
国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員としての活動	48
日本映画情報システムの運営	49

所蔵映画フィルム検索システムの拡充	49
映画関係団体等との連携	49
フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	50
業務運営の効率化	
1 業務の効率化のための取り組み	51
（1）各美術館の共通的な事務の一元化	51
（2）使用資源の削減	51
（3）美術館施設の利用推進	52
（4）民間委託の推進	53
（5）競争入札の推進	53
2 事業評価及び職員の研修等	54
3 管理情報の安全性向上	54
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	55
予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画	
1 予算	57
2 収支計画	58
3 資金計画	59
4 貸借対照表	59
5 短期借入金	59
6 重要な財産の処分等	59
7 剰余金	60
8 人事に関する計画	60
9 施設整備に関する計画	62
10 関連公益法人	62

- （別紙1）契約件数及び契約金額の状況（平成19年度）
（別紙2）随意契約見直し契約に関する進捗状況
（別紙3）「公共調達最適化」（財計第2017号）等に即した実施状況
（別紙4）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	291	5	176,675	194,000
東京国立近代美術館(工芸館)	127	2	27,637	43,000
京都国立近代美術館	226	8	67,307	94,000
国立西洋美術館	254	1	297,437	141,000
国立国際美術館	218	4	245,986	235,000
計	1,116	20	815,042	707,000

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

(本館)

所蔵作品展「近代日本の美術」では、絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真等、約9,500点のコレクションから、毎回180~250点の作品を選び、20世紀初頭から現代に至る日本の近代美術の流れが概観できるよう展示している。各階ごとの時代区分などの大枠は一定に保ちながら、会期ごとの展示作品の入れ替えを行っている。

また4階の特集コーナー、3階版画コーナー、写真コーナー、2階ギャラリー4では、特定の作家に絞った展示や特定のテーマによる小企画を設けることにより、編年順の所蔵作品展とは異なった視点を導入し、新鮮さと各会期ごとの変化を印象づけるよう努めている。

平成19年度は、所蔵作品展音声ガイドを導入した。利用者からは非常に高い評価を得ており、『ギャラリーガイド』、『鑑賞ノススメ』といった既存の観賞ツールと合わせて、来館者に対しての間口を広げることができた。

所蔵作品展は、会期ごとに内容が変化することを積極的にアピールし、リピーターの増加を図った。とりわけ、力を入れた小企画展は、新聞、雑誌、インターネット等でも数多く採り上げられ、反響を呼んだ。

所蔵作品展の内容をさらに充実させるために、小企画展等において国立美術館他館の所蔵作品をあわせて展示した。それにより企画の意図が明確化された。

作品の前で作家本人が語るアーティスト・トークを5回実施し、その模様をDVD化し会期中会場で上映したほか、ライブラリでの閲覧も開始した。

(工芸館)

陶磁、ガラス、染織、漆工、木竹工、金工・ジュエリー、人形、グラフィック・デザイン等の各分野にわたる約2,600点の所蔵作品の中から、約90~100点の作品を選び、「友禅と型染 / 元祖インダストリアル・デザイナー クリストファー・ドレッサー」、「こども工芸館 / 現代のガラス」等の工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を実施した。

プレスリリースを早期に作成発送し、ポスター・チラシを適宜配布、交通広告や新聞広告等で効率的な広報を図るとともに、鑑賞理解の補助のための和英の出品リストや鑑賞カードの配布、要望が多く寄せられていたキャプションの改善等、来館者サービスの充実に努めた。

イ 京都国立近代美術館

日本画、洋画、版画、彫刻及び陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリー等の工芸、写

真等約 8,600 点の中から、展示替え（年 8 回）を行い、近代日本美術の代表作や記念的な作品を中心に欧米の近・現代作品も併せて展示するとともに、企画展に合わせた小企画も同時に開催した。

平成 19 年度は企画展と連動したテーマ展示に力を注いだ。「福田平八郎と同時代の京都・洋画」「新制作協会の作家たちと 1960 年代の京都」、「ヨーロッパ、アメリカの工芸」は、開催された展覧会の背景説明、展覧会では紹介しきれなかった部分を効果的に補う展示として好評を得た。

また、コレクション・ギャラリーと教育支援活動を連携させた「ギャラリー・ラボ 2007」の開催は、今後の美術館運営に多くの示唆を与えるものであった。

ウ 国立西洋美術館

松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）及び中世末期から 20 世紀初頭までの西洋美術に関する作品の中から、絵画、素描、版画、彫刻等約 200 点の作品を選び、西洋美術の流れが概観できる展示を行った。なお、平成 19 年 9 月 14 日以降は、新館空調改修工事準備のため、新館展示室を閉鎖して所蔵作品展の規模を縮小し、本館及び前庭における展示のみとした。

また、より広い層に美術館の存在をアピールし、美術館のコレクションへの関心をより一層深めることを目的として、民間企業の支援による「OPEN Museum」事業を平成 19 年度から開始し所蔵作品展に関連したものについては以下のような事業を実施した（詳細は「（4）国民の美的感性の育成」及び「（6）快適な観覧環境の提供」を参照）。

- ・「FUN DAY」,「Fun with Collection 2007 見る楽しみ・知る喜び 美術史・市場・修復編」,「Museum X mas in 国立西洋美術館」等の教育普及事業を実施
- ・プロジェクターによるガイド映像と大型パネル展示のスペースを本館 1 階ロビーに新設。平成 18 年度の「ウェル・com 美術館」事業で制作した映像を再編集し、松方コレクション、ル・コルビュジエの建築及び主要な所蔵作品に関する映像の計 10 本を放映
- ・建築、壁画等移動が不可能な美術作品を写真によって紹介する「祈りの中世 ロマネスク美術写真展」を実施

以上の「OPEN Museum」事業は、民間企業と美術館の新しい提携の形として複数のメディアで報道され、広報面でも効果があった。

エ 国立国際美術館

美術作品の展示を通じ、日本美術の成立と発展が、世界の美術と密接な関係を有することを系統的・具体的に明らかにするとともに、我が国と世界の現代美術の新しい動向を分かりやすく展示している。

平成 19 年度の所蔵作品展は、杉本博司展と関連を見出せる作品を数多く選定し杉本博司の写真と当館の現代美術のコレクションを相互に鑑賞できるような展示構成とした「コレクション 1」, 同時期開催の企画展「藤本由紀夫 + / -」展の作品にちなんで抽象的な作品を含めて構成したほか、未公開のコレクションを中心として「芸術と言葉」、「街角」等様々なテーマについての展示、在日韓国人作家の作品の紹介等を行った「コレクション 2」, 1960 年代以降から今日までの美術作品を、3 つのゆるやかな文脈に沿って紹介した「コレクション 3」, 30 点以上の初公開作品を含む 125 点を、絵画・彫刻・写真を中心に展示した「コレクション 4」を開催した。また、企画展「エミリー・ウングワレー」展の会期中、同展と関連した「コートピア・ルーム」を併設した。

企画展

企画展は、利用者のニーズにこたえ、以下の観点に留意して実施した。

イ 国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

ハ メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

ホ その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立近代美術館 (本館)	生誕100年 鬚光展	51	32,309	32,000	ロ
	アンリ・ガティエ=ブレッソン 知られざる全貌	48	59,432	32,000	イ
	アンリ・ミショー ひとつのかたち	48	28,201	26,000	イ・ロ
	平山郁夫 祈りの旅路	44	110,596	200,000	ロ
	日本彫刻の近代	37	15,981	10,000	ロ
	わたしいまめまいしたわ 現代美術にみる自己と他者	45	20,109	11,000	ロ
	生誕100年 東山魁夷展	3	11,572	19,000	ロ
	計	276	278,200	330,000	
東京国立近代美術館 (工芸館)	青磁を極める - 岡部嶺男展	45	11,055	11,000	ニ
	開館30周年記念展 工芸館30年のあゆみ	51	14,429	10,000	ホ
	開館30周年記念展 工芸の力-21世紀の展望	54	13,338	10,000	ホ
	計	150	38,822	31,000	
京都国立近代美術館	アル・デ・コ・ジューリ-の世界 輝きの詩人シャル・ジャコ、ブシヨウ、リックらの宝飾デザイン展	13	17,262	9,000	イ・ニ
	ノース・レス:鈴木昭男+ロルフ・ユリアス展	12	2,922	1,000	ハ
	福田平八郎展	37	34,332	18,000	ホ
	舞台芸術の世界 ティアキレフのロシアバレエと舞台デザイン	33	15,022	27,000	イ
	ビル・ハイネ:テキスタイル・アートの彼方へ	25	9,854	11,000	ロ、ホ
	心の風景を求めて 没後10年 麻田 浩展	43	17,358	14,000	ニ
	文 承根 + 八木 正 1973 - 83の仕事展	37	11,349	6,000	ニ
	カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠	36	9,937	12,000	イ、ニ
	新収作品展 寄贈されたM&Yコレクション 池田満寿夫の版画	31	9,432	10,000	ホ
	玉村方久斗展	36	12,775	8,000	ニ
	ドイツ・ポスター 1890~1933	30	17,723	13,000	ロ、ニ
	計	333	157,966	129,000	
国立西洋美術	イタリア・ルネサンスの版画 チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による	32	21,551	21,000	イ

館	パルマ イタリア美術, もう一つの都	79	167,934	150,000	イ
	ムンク展	76	263,907	210,000	イ, 口
	ウルビーノのヴィーナス 古代からルネサンス, 美の女神の系譜	24	80,009	60,000	イ
	計	211	533,401	441,000	
国立国際美術館	ベルギー王立美術館展	69	108,998	124,000	イ
	様々な祖型 杉本博司新収蔵作品展	69	113,199	124,000	ホ
	世界遺産クレムリンの奇跡 ロシア皇帝の至宝展	61	81,769	88,000	イ
	藤本由紀夫展 +/-	63	89,367	88,000	ハ
	現代美術の皮膚	54	22,253	11,000	口
	国立国際美術館開館三十周年記念展 30年分のコレクション	42	67,031	10,000	口
	エミリー・ウングワレー展 アボリジニが生んだ天才画家	30	15,779	10,000	イ
	計	388	498,396	455,000	
国立新美術館	ポンピドー・センター所蔵作品展 異邦人たちのパリ1900 - 2005	33	124,933	100,000	イ, 口, ハ
	大回顧展モネ 印象派の巨匠, その遺産	76	704,420	250,000	イ
	スキン + ボーンズ 1980年代以降の建築とファッション	60	60,056	30,000	ハ
	日展100年	36	135,486	100,000	ホ
	安齊重男の“私・写・録”1970 - 2006	42	15,895	21,000	口
	アムステルダム国立美術館所蔵フェルメール《牛乳を注ぐ女》とオランダ風俗画展	72	493,886	200,000	イ
	文化庁芸術家在外研修制度40周年記念 文化庁芸術家在外研修の成果 『旅』展 異文化との出会い, そして対話	27	18,772	15,000	ホ
	没後50年 横山大観 新たなる伝説へ	36	223,671	150,000	ニ
	平成19年度(第11回)文化庁メディア芸術祭	11	40,553	20,000	ハ
	アーティスト・ファイル2008 現代の作家たち	24	13,005	12,000	ホ
	モディリアーニ展	6	16,736	18,000	イ
	計	423	1,847,413	916,000	
	合計		1,781	3,354,198	2,302,000

巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館(工芸館)	東京国立近代美術館所蔵 現代工芸の名品	石川県輪島漆芸美術館	39	2,724
	東京国立近代美術館 工芸名品展	射水市新湊博物館	50	2,659

東京国立近代美術館(フィルムセンター)	平成19年度優秀映画鑑賞推進事業	全国189会場	352 (延べ日数)	93,525
京都国立近代美術館	呉市立美術館開館25周年記念 京都日本画の粋 京都国立近代美術館の名品	呉市立美術館	37	8,300
	京都国立近代美術館所蔵「洋画の名画」	松坂屋美術館	26	33,161
	岩手銀行創立75周年記念事業 盛岡市民文化ホール開館10周年記念事業 京都国立近代美術館所蔵 日本の洋画展 浅井忠, 梅原龍三郎, 安井曾太郎ら54作家の競演	盛岡市民文化ホール・展示ホール	28	8,099
国立西洋美術館	国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパ美術の精華 - 神々と自然のかたち -	姫路市立美術館	25	7,577
	国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパ美術の精華 - 神々と自然のかたち -	松本市美術館	45	11,272
計				167,317

東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	共催者
追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄	大ホール	84	42	14,784	11,500	
映画監督 川島雄三	大ホール	108	36	24,609	16,500	
特集・逝ける映画人を偲んで2004-2006	大ホール	104	53	19,043	16,500	
日本・ウズベキスタン国交樹立15周年記念 ウズベキスタン映画祭	大ホール	20	10	2,095	2,000	ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金
日印交流年 インド映画の輝き	大ホール	68	34	8,528	7,000	
第8回東京フィルメックス 山本薩夫監督特集 ~ザッツ<社会派>エンタテインメント~	大ホール	24	8	3,543	3,000	特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会
NFC所蔵外国映画選集 ヨーロッパ映画名作選	大ホール	42	21	6,023	5,500	
生誕百年 映画監督 マキノ雅広(1), (2)	大ホール	222	74	34,973	24,000	
EUフィルムデーズ2007	大ホール・小ホール	40	16	4,101	3,000	駐日欧州委員会代表部EU加盟国大使館・文化機関
映画の教室2007	小ホール	18	9	2,064	2,500	
アンコール特集 2006年度上映作品より	小ホール	18	9	2,277	2,000	
日本・ポーランド国交回復50周年記念 ポーランド短篇映画選 ウッチ映画大学の軌跡	小ホール	24	12	2,190	3,000	ポーランド映画選実行委員会
スウェーデン・ドキュメンタリー新作選	小ホール	12	8	981	1,500	スウェーデン文化交流協会, スウェーデン映画協会
日本の文化・記録映画選: 芸術	小ホール	18	9	909	1,500	

を記録する						
NFC所蔵外国映画選集 アメリ リカ映画史研究	小ホール	18	9	1,422	2,000	
計		820		127,542	101,500	

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	共催者
スチル写真でみる日本の映画女優	153	8,060	6,000	
没後30年記念 チャップリンの日本 リン秘書・高野虎市遺品展	45	3,562	2,000	
マキノ映画の軌跡	72	3,092	3,000	立命館大学ア トリウムセンター
計	270	14,714	11,000	

(2) 美術創造活動の活性化の推進

公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ7,000 室 / 年

稼働率：100%

入館者数：1,317,508 人

平成19年度から開始した公募団体等への展覧会会場の提供について、公募団体等からの要望、意見を聞きつつ、以下のような多岐にわたる支援を行った

- ・ 作品搬入及び搬出のための車両出入等及び駐車等の基準を作成し、車両の出入りによる近隣への影響に配慮し、かつ作品搬入出が円滑に行えるように体制を整えた。
- ・ 審査・陳列作業等が円滑に行われるよう作品搬送用台車等の備品の充実を図った。
- ・ 作品陳列及び撤去作業が円滑に行えるように、事前に公募団体等と調整を図り、作品用エレベーターの時間別割り振りや陳列及び撤去作業時間の管理体制を整えた。
- ・ 展示室内の可動壁面を活用し、事前に公募団体等と調整し、公募展ごとに多様な会場構成を可能とした。
- ・ 展示環境の向上のために、現場において団体等と連携して照明調光作業ができる体制を整えた。
- ・ 展示壁面等施設の保全を図るため、展示室及び野外展示場等の保全対策を整えた。
- ・ 団体等に対し、「展示室等利用の手引き」、「絵画及び書等平面作品の陳列に関するガイドライン」、「公募展備品カタログ」等展覧会開催のための資料を作成・配布し、陳列作業の安全性や技術の向上に努めた。
- ・ 公募展サポートセンターを立ち上げ、団体等の作品搬入から陳列、撤去作業及び備品貸出並びに施設の管理等を一元的に管理ができる体制を整えることにより、公募展の円滑な運営をサポートした。公募展サポートセンターでは、使用団体に関する問い合わせ及び電話取次等も行い、公募展が円滑に運営できる体制を整えた。
- ・ 公募展の観覧者に対し、定期的に公募展開催案内チラシの作成・配布及び当館ホームページでの案内等公募展の周知、広報等に努めた。

新しい芸術表現への取組

【東京国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
わたしいまめまいしたわ(企画展)	45	ビデオ, 写真, 絵画, 彫刻, 版画ほか	20,109	11,000	
リアルのためのフィクション(小企画展)	69	ビデオ, 写真, 絵画ほか	-	-	
計	114		20,109	11,000	

ジュリアン・オピーの映像インスタレーション作品「日本八景」を購入し、2階エントランスホールに設置。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アニメの源へ - 日本アニメーション映画(1924～1952)(共催事業)	11	アニメーション	-	-	シネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール)
アニメ 日本アニメーション映画史(貸与)	4	アニメーション	-	-	フィンランド・フィルム・アーカイブ
計	15		-	-	

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ノイズレス：鈴木昭男＋ロルフ・ユリウス展(企画展)	12	サウンド・インスタレーション	2,922	1,000	共催：京都新聞社，京都ドイツ文化センター 協賛：ルフトハンザドイツ航空 企画協力：京都国際現代音楽フォーラム
計	12		2,922	1,000	

【国立西洋美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ル・コルビュジエ資料展(平成21年度)実施に向けた準備	-	建築	-	-	-
計	-		-	-	-

建築専門の客員研究員の招へい。教育普及担当職員による海外調査。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
藤本由紀夫展 +/- (企画展)	63	メディアアート	89,376	88,000	-
計	63		89,376	88,000	

メディアアート専門の客員研究員の招へい。16ミリフィルム上映(1回)，ビデオ上映(7回)を実施。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
異邦人たちのパリ 1900-2005(企画展)	33	ビデオ・アート	124,933	100,000	ボンビドー・センター(フランス)
スキン＋ボーンズ 1980年代以降	60	建築，ファッション	60,056	30,000	ロサンゼルス現代美術館(アメ)

の建築とファッション（企画展）					リカ） サマーセットハ ウス（イギリス）
平成 19 年度（第 11 回）文化庁メディア芸術祭（企画展）	11	アニメーション，マンガ， エンターテインメント	40,553	20,000	文化庁メディア 芸術祭実行委員 会（文化庁，C G - A R T S 協 会）
アーティスト・ファイル 2008 - 現代 の作家たち（企画展）	24	ビデオ・アート，インス タレーション	13,005	12,000	-
計	128		238,547	162,000	

館内（B1）液晶ディスプレイを活用し，文化庁メディア芸術祭関連映像作品を放映。

（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上

情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数	目標数（第1期平均）
本部	5,577,510	74,434
東京国立近代美術館（本館・工芸館・フィルムセンター含む）	7,763,919	4,341,163
京都国立近代美術館	2,127,372	222,502
国立西洋美術館	5,924,487	720,126
国立国際美術館	597,608	360,196
国立新美術館	12,076,861	-
計	34,067,757	5,724,279

イ 各館のICT活用の特徴

（ア）本部

法人ホームページをリニューアルし，国立美術館5館の展覧会や各種催事等のトピックスを一覧できるようにするなど充実を図ったことにより，アクセス数が大きく増加した。

（イ）東京国立近代美術館

ホームページ・デザインを改良するとともに，コンテンツ・マネジメント・システム（CMS）を稼働させ，コンテンツの追加更新を迅速に行える体制を整えた。

また，本館アトライブラリが所蔵する国内展覧会図録の書誌・所在情報の国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）への登録について，同研究所の遡及入力支援事業により4,050件を登録した。

フィルムセンターでは，事業関連の情報を提供する「NFCメールマガジン」について登録者数の着実な増加があった。また，映画関連資料へのアクセス希望に対しては，デジタル・データによる提供を積極的に行い速やかな図版提供に努めた。

（ウ）京都国立近代美術館

麻田浩展電子メール討論会を実施し，寄せられた意見をもとに，展覧会最終日にシンポジウムを開催した。また，コレクション・ギャラリーの各小企画，テーマ展示に関する小論文を毎回ホームページに掲載し，情報発信の充実に努めた。

（エ）国立西洋美術館

ホームページの構成・デザインを一新し，開催中の展覧会，今後の展覧会等の最新情報とともに，過去の展覧会や当館についてなど，国立西洋美術館についての理解を深めるコンテンツを提供する内容とした。

「今日，どの作品が観られるか」という展示情報を含む所蔵作品検索システムを構築し，

インターネットへの公開を開始した。また、科学研究費補助金により、作品の来歴・掲載文献歴といった学術情報や、画像のデジタル化を行った（データ延べ数：テキストデータ4,300件、画像データ2,100件）。インターネットに公開した所蔵作品検索システムは、収蔵作品の管理と情報公開の2つの業務の一元化により実現したもので、ホームページ上の煩雑な作品情報更新を省力化することにもつながった。

(オ) 国立国際美術館

展覧会等の情報を利用者に分かりやすく提供するとともに、特にバリアフリー情報、託児サービス等利用案内情報の充実に努めた。

また、展覧会ごとに英語版の展覧会情報ページを作成し、海外への情報発信を図った。

(カ) 国立新美術館

インターネットで他の美術館や公募団体展、画廊での展覧会情報を検索できるサービス「アート commons」の充実に努めた。

ホームページによる企画展・公募展の開催情報の告知、講演会・アーティストトーク・ワークショップの告知、講演会記録（音声）の公開、「美術館ニュース」のダウンロード等、インターネットを広報媒体として積極的に利用した。

また、特別閲覧室の利用オンライン予約の提供の開始、ワークショップなどの申込の電子メールによる受付等の取組を実施した。

美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名	収集件数	累計件数	利用者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	3,571	102,516	2,961	1,853
東京国立近代美術館(工芸館)	1,903	15,907	453	317
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	1,276	27,506	3,181	3,085
京都国立近代美術館	2,068	15,753		
国立西洋美術館	2,528	41,341	365	119
国立国際美術館	1,017	31,809		
国立新美術館	13,286	120,069	116,740	
計	25,649	354,901	123,700	5,374

注1 京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

注2 国立新美術館は、目標数を設定していない。

イ 特記事項

美術図書館連絡会（ALC）の美術図書館横断検索の検索対象に国立情報学研究所の「Webcat」並びに東京国立博物館及び江戸東京博物館の図書資料が加わり、検索範囲が拡大した。なお、東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館が参加している美術図書館連絡会は、美術図書館横断検索の開発と公開が評価され、アート・ドキュメンテーション学会より第1回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞を受賞した。

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、平成18年開催の藤田嗣治展を契機として、同画家の旧蔵資料836点を受け入れた。

フィルムセンターは、フィルムセンターの原本提供と監修により「国際映画新聞」の復刻を行った（ゆまに書房刊）。「国際映画新聞」全284冊のうち19年度内には第

6 回配本，第 7 回配本として，2 1 3 号から 2 8 2 号まで（2 3 5 号を除く）6 9 冊の原本提供を行った。

(イ) 国立西洋美術館

我が国における西洋美術史研究のナショナルセンター的機能を担うための方策として，研究資料センター利用規定の見直しや，一過性資料（パンフレット，リーフレット，新聞・雑誌クリッピング資料，絵はがき等の資料類）の収集・公開方法の検討を行った。

現在，外部で企画進行中のレファレンス・ブック（『展覧会カタログ総覧（仮）』民間企業の企画・発行）の美術振興における重要性にかんがみ，東京国立近代美術館等と共同で同書に対するデータ協力及び監修を行った。

(ウ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を行った。特に国際展に関する文献等も積極的に収集した。

(エ) 国立新美術館

特別資料閲覧コーナーを開設し，一般の供覧に適さないような貴重書などについて，別館において事前予約制の閲覧サービスを開始した。

また，「JAC (Japan Art Catalog) プロジェクト」として，海外では入手が困難な日本の展覧会図録を取りまとめ，欧米の日本美術研究の拠点（4 機関）に寄贈し，日本の美術館による研究成果を発信した（19 年度送付実績 1,955 冊）。

さらに，平成 19 年度から「JAC プロジェクト」として，展覧会図録を寄贈した機関から，海外で開催された日本の美術に関する展覧会図録の寄贈を受けた（19 年度受入実績 130 冊）。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名	画像データ				テキストデータ				
	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数	
東京国立近代美術館	236	9,817	2,121	1,394	143	10,009	9,437	9,144	
本館	240	2,923	120	23	78	3,148	2,681	2,516	
工芸館	0	0	-	-	8,707	93,978	-	-	
フィルムセンター (映画関連資料)	500	5,850	730	517	717	9,345	8,006	5,612	
京都国立近代美術館	2,100	3,870	202	202	17	4,515	4,303	4,058	
国立西洋美術館	347	5,819	32	5	416	6,722	5,788	5,101	
国立国際美術館	計	3,423	28,279	3,205	2,141	10,078	127,717	30,215	26,431

注 「公開件数」は，所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお，国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ 1,908 点を公開している。

エ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

前年度に東京国立近代美術館及び国立新美術館において整備されたVPN（暗号化された通信網）を国立美術館 5 館全体に採用するための詳細仕様を策定し，安全かつ高速な情報ネットワークの確立を平成 20 年度上半期において実施する体制を築いた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムはデータの追加更新を行うとともに，画像掲載の増加を図るため，前年度に許諾を得た日本画等の作品 715 点の画像を掲載するとともに，洋画について著作権許諾の手続きを開始した。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載の全文字画像データ（上記著作権許諾作

品の画像は除く)を正式公開版となった文化遺産オンラインの文化遺産データベースに提供し、文化遺産データベースからも国立美術館所蔵作品の情報の検索を可能にした。

(4) 国民の美的感性の育成

幅広い学習機会の提供(講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)

館名	実施回数	参加者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	83	4,759	2,718
東京国立近代美術館(工芸館)	32	1,229	1,285
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	146	8,833	1,470
京都国立近代美術館	40	2,991	1,590
国立西洋美術館	142	14,365	5,582
国立国際美術館	56	4,019	2,340
国立新美術館	200	16,838	-
計	699	53,034	14,985

ア 各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

平成19年度は、研修を受けた教員が児童生徒を引率して来館したり、アーティスト・トークの内容が、解説ボランティアによって来館者に伝えられたりするなど、それぞれの事業が有機的に関連しあい、前年度と比して約1.4倍の参加者があった。また、夏休みのこども美術館(中学生プログラム)では、科学研究費補助金による共同研究の成果を活用した。

(工芸館)

平成19年度は「所蔵作品展 たんけん! こども工芸館/現代のガラス」におけるパフォーマンス等、多種にわたるギャラリートーク・パフォーマンス等を開催し、体験的・参加型の鑑賞方法を提案することで親しみや関心が増し、スムーズな鑑賞を進めることができるように工夫した。

また、「開館30周年記念展 工芸の力」では作家と研究員の対談形式のトークイベントを行い、専門性を深めながら一般の参加者にも分かりやすい内容となるよう努めた。

さらに、単位制高校の受入れや児童・生徒向けプログラムを活用した夏休みの課題に協力するなど、初等・中等教育機関との連携を図った。

(フィルムセンター)

平成19年度は、トークイベントの増加が特筆される。特に「ウズベキスタン映画祭」では10日間の会期中の6日、「スウェーデン・ドキュメンタリー新作選」では8日間の会期中7日イベントを開催し、年間の開催数は約40回を数えた。また、「チャップリンの日本」展にあわせて開かれたトークイベントは、約150人の参加者を得る盛況となった。

「こども映画館」は6年目を迎え、映画上映に施設見学や弁士・生演奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルが定着してきた。特に無声映画を上映する回では定員の150人を超える応募があった。

そのほか、所蔵作品展「展覧会 映画遺産」の展示品のうち、日本映画史の基本的事項にかかわる資料を解説した子ども向けのセルフガイド(解説カード)を配付した。

(イ) 京都国立近代美術館

多様な鑑賞手法を研究するため「ギャラリー・ラボ2007」を開催した。期間を限り、コレクション・ギャラリーで「鑑賞のための会話を積極的に認める」、「子供連れの成人

を無料にする」という設定を行い、館外のグループ、研究者たちが発案したプランに基づき、美術鑑賞の新しい形を探った。また、美術家による託児機能を備えた美術作品「プレイルーム」を設置し、美術館に幼児を受け入れるための試みを行った。

(ウ) 国立西洋美術館

所蔵作品展をさまざまな切り口で楽しむ Fun with Collection について、平成19年度は「美術史・市場・修復編」と題し、所蔵作品の学術的研究や、マーケットでの取引、修復などに関わる人々を講師に迎え、新たな視点を参加者に提供した。

また、平成19年度は、普段美術館に足を運ばない層を美術館に呼び込むプログラム FUN DAY、障害者を対象とする鑑賞プログラム、都立高校の奉仕の課外授業の受け入れの3種類の新規事業を開始した。

企画展のない時期に美術館を無料開放して様々なプログラムを用意した FUN DAY は、好評を博し、当日の成果だけでなく、これが契機となってファミリープログラムへ応募する家族が出てくるなど、美術館が意図した未来の来館者発掘に貢献する結果を得ることができた。

障害を持つ人々に対するプログラムは、以前は要望があったときに対応するという形でしか実施してこなかったが、平成19年度から民間企業の協力を得て、継続的なプログラムとしてスタートした。

都立高校の奉仕の課外授業の受け入れについては、「絵でたのしむクリスマス」を生徒とともに行った。この事業を通じ、プログラムを実施する国立西洋美術館の職員、ボランティアスタッフ、さらにはプログラム参加者にとって、年齢層が広がることで活動の楽しさやコミュニケーションが活性化されることを実感できた。

(エ) 国立国際美術館

企画展ごとに講演会、ギャラリートークを実施するとともに、開館30周年記念シンポジウム「未完の過去 この30年の美術」を開催した。シンポジウムでは、国内外から専門家をパネリストとして招へいして、2日間にわたり開催し、合計830名の参加者を得た。また、平成19年度は新たに教員向け美術館活用ガイド「先生のための国立国際美術館活用ガイド」を作成した。

その他、以下の教育プログラムを実施した。

- ・鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニアセルフガイド」の発行（ベルギー展、三十周年記念展の2回）
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ
- ・教員研修の実施（6校 合計174名）

(オ) 国立新美術館

平成19年度は、講演会、ギャラリートーク等を計200回開催し、延16,000人強の参加者を得ることができた。

展覧会に関連した講演会やギャラリートークのほか、子供から大人まで幅広い層を対象にワークショップを実施した。新しい美術の動向を紹介するという美術館の活動方針に則り、ワークショップについては現在活躍中の作家や様々な分野のアーティスト等を講師に招いたプログラムを企画した。また、他機関との共催によるイベントや、海外の作家や美術関係者による講演会など、広く美術を普及するためのプログラムを実施した。この他、

鑑賞ガイダンス及び施設ガイダンスを逐次実施した。

ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録者数	ボランティア参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館（本館）	24	402	3,676
東京国立近代美術館（工芸館）	24	189	2,464
京都国立近代美術館	29	241	-
国立西洋美術館	17	326	3,048
国立国際美術館	50	108	-
国立新美術館	76	252	-
計	220	1,518	9,188

イ 各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、ガイドスタッフ発足5年を迎え、第3期スタッフの募集と採用者への研修を実施した。事業への参加者数も内容も安定し、沖縄県立博物館・美術館など、これからボランティアガイドを始めようとする他館が、見学に来館することが増加している。

工芸館のボランティアスタッフによるガイド「タッチ&トーク」は、リピーターやこれを目的とした来館者の増加から定着の段階に入った様子が窺われる。平成19年度も一般や子どもを対象とした事業のほかに英語トークや団体対応などを実施した。第3期スタッフの育成も始まり、平成20年度は総勢約30名と増員が見込める状況となった。

(イ) 京都国立近代美術館

ボランティアによる聞き取りアンケートの実施等の活動を行った。

(ウ) 国立西洋美術館

ボランティア活動は、プログラムの普及に合わせて実施回数も増加している。平成19年度は、クリスマスに実施するプログラムも新規に開始され、全体として充実した年となった。

また、通年で継続的に活動を行うボランティアのほか、FUN DAYでの臨時ボランティアの採用（73人）や都立高校の奉仕の課外授業の受け入れ（5人）を実施するなど、ボランティアとの連携もより多様性のあるものとなった（参加者延べ数：FUN DAY 臨時ボランティア92人、都立高校奉仕（絵でたのしむクリスマス）20人）。

(エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り、教育普及事業の実施補助、広報資料の発送、図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通して、美術館活動に接する機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

学生ボランティアによる活動支援を呼びかけるため、サポート・スタッフ制度を実施した。教育普及事業から広報まで、幅広い活動に参加してもらうことにより、美術館の活動に関心を持つ学生（大学生、大学院生）に対し、美術館における様々な実務体験の機会を提供することができた。

ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) コンサート等の実施

新国立劇場，京都市立芸術大学，東京のオペラの森実行委員会，ダイキン工業現代美術振興財団等との協力により，各館においてコンサートやオペラ，落語会，演劇などを開催した（38回）。

(イ) ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等49館が実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス2007」及び関西の美術館・博物館等65館が実施する「ミュージアムぐるっとパス・関西2007」に参加し，所蔵作品展観覧料金の無料化などを実施した。また，平成20年度からは国立新美術館が参加することを決定した。

(ウ) NPO法人との連携

東京国立近代美術館において，平成20年1月2日にNPO法人美術ファンクラブとの連携により，本館所蔵作品展「近代日本の美術」の無料観覧を実施（入館者数1,218人）したほか，新たに工芸館「開館30周年記念展 工芸の力 - 21世紀の展望」の無料観覧を実施（入館者数2,313人）した。

フィルムセンターでは，「東京フィルメックス」との共催が5年目を迎えた（平成19年度「第8回東京フィルメックス 山本薩夫監督特集」入館者数3,543人）本企画をきっかけとして，海外の映画祭やアーカイブ機関を対象としたフィルムの貸与が活発化するなど，日本映画の普及に成果を上げている。

京都国立近代美術館においては，「アートリンク日米フォーラム 京都セッション（財団法人たんぼぼの家，エイブル・アート・ジャパン，Creative Clay Inc.，ミュージアム・アクセス・ビュー，京都造形芸術大学との連携）」及び「ミュージアム・アクセス・ビュー鑑賞ツアー（ミュージアム・アクセス・ビューとの連携）」を行った。

(エ) 六本木地区の美術館等との連携・協力

国立新美術館において，六本木地区の美術館等との連携・協力により，「六本木アート・トライアングルマップ」を作成・配布するとともに，六本木ヒルズとの連携・協力によりシャトルバスを運行した（平成19年3月5日～5月7日：土・日・祝日，平成19年7月28日～8月26日：火曜日を除く毎日）。

(オ) 企業との連携

国立西洋美術館では，セイコーエプソン株式会社とエプソン販売株式会社の支援を受け，OPEN museum（美術を通して人々が出会う開かれた美術館をみざすプロジェクト）を発足し，美術館無料開放日「FUN DAY」の開催，映像ガイドの上映，クリスマスプログラムの実施等各種プログラムの充実を図った。本事業は，ナショナルセンターとして美術館と民間企業との連携のあり方や，新たな事業の方向性について提示することにも繋がった。

国立国際美術館では，企業とのタイアップによる前売券の発券，企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等を以下のとおり実施し，企業との連携を進めた。

a 次の展覧会情報誌に掲載し，同時に割引を実施。

- ・「アサヒメイト」（発行：朝日友の会）
- ・「STACIA ご優待ガイド」（発行：㈱阪急阪神カード）
- ・「e-kenet LETTER」（発行：㈱京阪カード）
- ・「レインボウファミリー」（発行：大阪市交通局）

b 英語・日本語併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：（財）大阪21世紀協会）に展覧会情報を掲載し，外国人旅行者に対する普及広報を実施。

c 近隣ホテル（リーガロイヤルホテル，ホテル阪急インターナショナル等）と連携し，広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施。

d 「Osaka メセナカード」と連携し、大阪府への普及広報を実施。

映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

フィルムセンターと京都国立近代美術館の共同開催により、京都国立近代美術館において、フィルムセンターの所蔵フィルムを用いたピアノ伴奏付き無声映画上映会「京都国立近代美術館＋東京国立近代美術館フィルムセンター共催フィルム・プロジェクト キックオフ記念イベント[フランス無声映画上映会]「鉄道の白薔薇」」を実施した。

- ・京都国立近代美術館＋東京国立近代美術館フィルムセンター共催フィルム・プロジェクト キックオフ記念イベント[フランス無声映画上映会]「鉄道の白薔薇」(1回) 137人

また、児童生徒を対象として継続して実施している「こども映画館」は、児童・生徒を対象とした単なる上映企画にとどまらず、上映・展示・研究員の解説を組み合わせる映画に関する子どもたちの感性・知識を高めるべく構成された映画教育プログラムとなっている。

- ・「こども映画館 2007年の夏休み」(4回) 378人
- ・相模原市内の小・中学生を対象とした上映会(由野台中学校)(2回) 220人

(5) 調査研究成果の美術館活動への反映

ア 東京国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
観光に関する調査研究	平成18-19年度に展覧会を開催し、連携機関と共同で図録を編集・発行。	広島県立美術館、宮城県美術館
アンリ・カルティエ＝ブレッソンに関する調査研究	展覧会を開催し、図録を発行。	アンリ・カルティエ＝ブレッソン財団(パリ)
アンリ・ミショーに関する調査研究	展覧会を開催し、図録を書籍化(平凡社刊)して刊行。	アンリ・ミショー・アーカイヴ(パリ)
平山郁夫に関する調査研究	展覧会を開催し、連携機関と共同で図録を編集・発行。	広島県立美術館
日本近代彫刻史に関する調査研究	「日本彫刻の近代」展を開催し、図録を連携機関と共同で書籍化(淡交社刊)して刊行。	宮城県美術館、三重県立美術館
東山魁夷に関する調査研究	平成19-20年度に展覧会を開催し、図録を連携機関と共同で編集・発行。	長野県信濃美術館
アジアを中心とする線描芸術に関する調査研究	平成20年度に展覧会を開催すべく、連携機関と共同で企画・立案、調査研究を実施。	京都国立近代美術館、国際交流基金
沖縄の近代美術に関する調査研究	平成20年度に展覧会を開催予定。調査研究については連携機関と共同で実施。	沖縄県立博物館・美術館
ウィリアム・ケントリッジに関する調査研究	平成21年度に展覧会を開催すべく、連携機関と共同で企画・立案、調査研究を実施。	京都国立近代美術館
小野竹喬に関する調査研究	平成21年度に展覧会を開催すべく、連携機関と共同で企画・立案、調査研究を実施。	笠岡市竹喬美術館、大阪市立美術館
美術館教育に関する調査研究	団体受け入れの促進など、都内小学校の美術館での鑑賞教育の充実	東京都図画工作研究会
鑑賞教育に関する調査研究	報告書を「鑑賞教育指導者研修」等の参加者に配布し、参考に供した。	鳴門教育大学、兵庫教育大学、東京学芸大学等
美術館情報システムに関する調査研究	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムなど、国立美術館が保有する情報資源の公開促進について、連携機関と共同で企画・立案、調査研究を実施	国立情報学研究所、国立新美術館
岡部嶺男に関する研究	共催展「青磁を極める 岡部嶺男展」	岐阜県陶芸美術館、山口県立萩美術館
カルロ・ザウリに関する研究	交換展「カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠」	京都国立近代美術館
ルーシー・リーに関する研究	平成22年度に展覧会を開催すべく調査研究を実施	兵庫県陶芸美術館

近現代工芸の特質に関する調査研究	巡回展「東京国立近代美術館所蔵 現代工芸の名品」(輪島) 巡回展「東京国立近代美術館 工芸名品展」(新湊)	石川県立輪島漆芸美術館, 射水市新湊博物館
現代工芸における伝統様式の研究	大英博物館特別展「わざの美: 伝統工芸の50年」	大英博物館, セインズベリー日本藝術研究所
戦後デザインの成立と展開についての調査研究	平成20年度に展覧会を開催すべく調査研究を実施	愛知教育大学, 多摩美術大学
染織及び陶芸作品の鑑賞理論の構築と美術館教育の調査研究	工芸館開館30周年記念展 「工芸館30年のあゆみ」	東京家政大学, 多摩美術大学
児童・生徒を対象とした鑑賞と制作体験の連動による工芸作品理解の推進のための調査研究	所蔵作品展「こども工芸館」	山口県立萩美術館・浦上記念館
杉浦非水の雑誌表紙調査	研究紀要に掲載	-
海外を含めた未発見の映画フィルムの所在調査	全米日系人博物館所蔵バン・コレクションの作品確定と寄贈手続きを完了 川喜多記念映画文化財団所蔵『肉体の門』(1948年)などの作品確定と寄贈手続きを完了	全米日系人博物館との共同研究
映画フィルムの保存, デジタル技術を活用した復元に関する調査研究	ルーヴル美術館との共催による『瀧の白糸』(1933年)の上映 染色版フィルムの復元	国際フィルム・アーカイブ連盟同種研究機関等との共同研究
マキノ雅広監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 マキノ雅広」及び 展覧会「マキノ映画の軌跡」を開催	立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究
今村昌平監督と黒木和雄監督に関する調査研究	上映会「追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄」を開催	
川島雄三監督に関する調査研究	上映会「映画監督 川島雄三」を開催	
日本の映画女優(スチル写真)に関する調査研究	展覧会「スチル写真でみる日本の映画女優」を開催	
チャールズ・チャップリンと日本との関係に関する調査研究	展覧会「没後30年記念 チャップリンの日本 チャップリン秘書高野虎市遺品展」を開催	日本チャップリン協会との共同研究
ウズベキスタン映画に関する調査研究	上映会「日本・ウズベキスタン国交樹立15周年記念 ウズベキスタン映画祭」を開催	ウズベキスタン国立映画委員会, ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金, ウズベキスタン映画祭実行委員会との共同研究
ポーランド短篇映画に関する調査研究	上映会「日本・ポーランド国交回復50周年記念 ポーランド短篇映画選 ウッチ映画大学の軌跡」を開催	ウッチ映画大学, ポーランド映画選実行委員会との共同研究
子ども向けの映画教育プログラムに関する調査研究	教育普及事業「こども映画館 2007年の夏休み」を実施	コミュニティシネマ支援センター等との共同研究
インド映画史に関する調査研究	上映会「日印交流年 インド映画の輝き」を開催	
山本薩夫監督に関する調査研究	上映会「第8回東京フィルメックス 山本薩夫監督特集 ~ザッツ<社会派>エンタテインメント~」を開催	東京フィルメックス実行委員会との共同研究
ヨーロッパ映画に関する調査研究	上映会「NFC所蔵外国映画選集 ヨーロッパ映画名作選」を開催	
スウェーデン映画に関する調査研究	上映会「スウェーデン・ドキュメンタリー新作選」を開催	スウェーデン文化交流協会等との共同研究
日本の文化・記録映画に関する調査研究	上映会「日本の文化・記録映画選: 芸術を記録する」を開催	
1930年代アメリカ映画に関する調査研究	上映会「NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究」を開催	

イ 京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
---------	-----------	------

現代音楽と美術の領域に関する研究(鈴木昭男とロルフ・ユリウスを中心に)	展覧会の開催と図録製作 立命館大学との共同プロジェクト	京都国際現代音楽フォーラム, 立命館大学
福田平八郎に関する調査研究	展覧会の開催と図録の製作	
ロシアバレエの舞台デザインの調査研究(ディアギレフを中心に)	展覧会の開催と図録の製作 コレクション・ギャラリーの特別展示「バレエ・リュス」	北海道立釧路芸術館, 東京都庭園美術館, 青森県立美術館
現代テキスタイルアートの彫刻的展開に関する調査研究	展覧会開催と図録の製作	
文承根と八木正及び1980年頃の日本現代美術の調査研究	展覧会開催と図録製作	千葉市美術館
カルロ・ザウリとイタリア現代陶芸に関する調査研究	展覧会開催と図録製作 コレクション・ギャラリーの特別展示「ヨーロッパ, アメリカの工芸」 シンポジウム	東京国立近代美術館, 岐阜県現代陶芸美術館, 山口県立萩美術館浦上記念館
玉村方久斗と昭和初期日本画の新動向に関する調査研究	展覧会の開催と図録製作	神奈川県立近代美術館
ドイツ近代ポスターに関する調査研究	展覧会開催と図録製作 シンポジウム	宇都宮美術館
インターナショナル・アーツ・アンド・クラフツと日本との関係に関する調査研究	平成20年度開催に向け準備中	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
麻田浩と新制作に関する調査研究	展覧会の開催と図録の製作 シンポジウム	
上野伊三郎・上野リッチ作品資料に基づく, 近代日本建築史の調査研究	展覧会開催に向け準備中 重要資料の復刻出版を準備中	京都工芸繊維大学, 京都女子大学
池田満寿夫版画作品の調査研究	展覧会の開催と所蔵品目録の製作	
館所蔵の日本画, 洋画, 工芸作品についての調査研究	コレクション・ギャラリーでの小企画, テーマ展示	
多様なミュージアム・アクセスを探る調査研究	ギャラリー・ラボ2007の開催	京都造形芸術大学, 同志社大学

ウ 国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
イタリア・ルネサンス時代の版画に関する調査研究(チューリヒ工科大学版画素描館との共同研究)	「イタリア・ルネサンスの版画」展を開催。同展の図録を刊行, 新聞等への掲載, 講演会等による発表を実施	チューリヒ工科大学版画素描館, 跡見学園大学
15世紀末～17世紀のバルマ派美術の調査研究(バルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局等との共同研究)	「バルマ イタリア美術, もう一つの都」展を開催。同展の図録を刊行, 新聞等への掲載, 講演会等による発表を実施	バルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局, フィレンツェ特殊美術館監督局, ナポリ特殊美術館監督局
エドヴァルド・ムンクの装飾プロジェクトに関する調査研究(兵庫県立美術館との共同研究)	「ムンク展」を開催。同展の図録を刊行, 新聞等への掲載, 講演会等による発表を実施	オスロ市立ムンク美術館, 兵庫県立美術館
イタリア美術におけるヴィーナス図像に関する調査研究(ウフィツィ美術館との共同研究)	「ウルビーノのヴィーナス 古代からルネサンス, 美の女神の系譜」展を開催。同展の図録を刊行, 新聞等への掲載, 講演会等による発表を実施	フィレンツェ文化監督局長官, ウフィツィ美術館
コローとその影響に関する調査研究	「コロー 光と追憶の変奏曲」展(平成20年開催予定)企画構成	ルーヴル美術館, 神戸市立博物館
ヴィルヘルム・ハンマースホイとデンマーク世紀末の画家に関する調査研究	「ヴィルヘルム・ハンマースホイ」展(平成20年開催予定)企画構成	英国王室立芸術院, ハンブルク美術館, コペンハーゲン国立美術館, オアドロブゴー美術館, デーヴィッド・コレクション, オーフース美術館, ヒアシュブルグ美術館
17世紀絵画に関する調査研究	「ルーヴル美術館 17世紀絵画」展(平成21年開	ルーヴル美術館, 京都市立美

	催予定)企画構成	術館
アルブレヒト・デューラーの版画芸術に関する調査研究	「アルブレヒト・デューラー 宗教/肖像/自然」展(平成21年開催予定)企画構成	メルボルン・ナショナルギャラリー・オブ・ヴィクトリア
フランス諸地域のロマネスク聖堂に関する調査研究	小企画展「祈りの中世 ロマネスク美術写真展」を開催	特になし
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	収集, 作品・文献調査, 所蔵作品展・企画展・巡回展企画構成, 刊行物, シンポジウム, 講演発表, 解説等	姫路市立美術館, 松本市美術館, バルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局, フィレンツェ特殊美術館監督局, ナポリ特殊美術館監督局
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	収集, 作品・文献調査, 所蔵作品展・企画展・巡回展企画構成, 刊行物, シンポジウム, 講演発表, 解説等	ルーヴル美術館, コペンハーゲン国立美術館, オードラップゴー美術館, オーデンセ市立美術館, ハンブルク美術館, ロンドン, ロイヤル・アカデミー, オスロ・ムンク美術館, パリ日本文化会館, 日本学術振興会, 姫路市立美術館, 松本市美術館, フィレンツェ文化監督局長官, ウフィツィ美術館, 大英博物館, メルボルン・ナショナルギャラリー
平成14年度以降収集した館蔵版画作品に関する調査研究	小企画展「平成14-18年度新収蔵版画作品展」を開催	特になし

エ 国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
藤本由紀夫に関する調査研究	「藤本由紀夫 + / - 」展開催	和歌山県立近代美術館, 西宮市大谷記念美術館
ロシア美術に関する調査研究	「ロシア皇帝の至宝展～クレムリンの奇跡～」開催	モスクワ・クレムリン博物館, 江戸東京博物館
人体表現に関する美術の調査研究	「現代美術の皮膚」展開催	アジア次世代キュレーター会議
エミリー・カーメ・ウングワレーに関する調査研究	「エミリー・ウングワレー アボリジニが生んだ天才画家」	オーストラリア国立博物館, 国立新美術館
中国現代美術に関する調査研究	平成20年度「アヴァンギャルド・チャイナ<中国当代美術>二十年」展開催	国際交流基金, 国立新美術館
美術館教育に関する調査研究	「ジュニアセルフガイド」発行や「こどもびじゅつあー」実施	
日本の現代美術に関する調査研究	所蔵作品展他当館の現代美術に関する情報蓄積	
国際的, 特にアジアの現代美術に関する調査研究	平成20年度「アヴァンギャルド・チャイナ<中国当代美術>二十年」展開催	
アジアのキュビズムに関する調査研究	アジアのキュビズムに関する情報の蓄積	国際交流基金, 神奈川県立近代美術館, 上智大学, 東京国立近代美術館
メディアアートに関する調査研究	平成20年度「液晶絵画」展	三重県立美術館, 東京都写真美術館
「モダニズムと中東欧の近代芸術に関する国際・学術共同研究」	中東欧の近代芸術に関する情報の蓄積	大阪大学
「知の統合力を育成する鑑賞学習支援システムの開発」	「ジュニアセルフガイド」発行 「こどもびじゅつあー」実施 教員向け美術館鑑賞ガイドブック作成	鳴門教育大学, 東京国立近代美術館

オ 国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
クロード・モネについての調査研究	「大回顧展モネ」展を開催。同展の図録を刊行	オルセー美術館
現代の建築とファッションにおける近似的な表現についての調査研究	「スキン+ボーンズ」展を開催。同展の図録を刊行。	ロサンゼルス現代美術館
官展史及び日展史に関する調査研究	「日展100年」展を開催。同展の図録を刊行。	宮城県立美術館他
安齊重男に関する調査研究	「安齊重男の“私・写・録”1970-2006」展を開催。同展の図録を刊行。	
17 - 19世紀におけるオランダ風俗画についての調査研究	「フェルメール《牛乳を注ぐ女》とオランダ風俗画展」を開催。同展の図録を刊行。	アムステルダム国立美術館
フェルメールについての調査研究	「フェルメール《牛乳を注ぐ女》とオランダ風俗画展」を開催。同展の図録を刊行。	アムステルダム国立美術館
横山大観についての調査研究	「没後50年横山大観」展を開催。同展の図録を刊行。	横山大観記念館他
モディリアーニとプリミティヴスムについての調査研究	「モディリアーニ展」を開催。同展の図録を刊行。	国立国際美術館
エミリー・カーメ・ウングワレーについての調査研究	「エミリー・ウングワレー展」（平成20年度開催予定）企画構成。	オーストラリア国立博物館，国立国際美術館
オーストラリアのアボリジニ美術についての調査研究	「エミリー・ウングワレー展」（平成20年度開催予定）企画構成。	オーストラリア国立博物館，国立国際美術館
中国現代美術に関する調査研究	「アヴァンギャルド・チャイナ展」（平成20年度開催予定）企画構成。	国際交流基金，国立国際美術館，愛知県美術館
日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2008」展企画構成。	
美術館教育に関する調査研究	「安齊重男の“私・写・録”1970-2006」展鑑賞ガイドブック「アートのとびら vol.2」（日英併記）作成。	
美術館教育に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2008」展鑑賞ガイドブック「ちいさなアーティスト・ファイル2008」（日英併記）作成。	
日本の近現代美術資料に関する調査研究	資料収集・公開。	
戦後の公立美術館における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究	美術情報の収集・提供。	
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	展覧会情報システムへの登載。	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術作品の公開のためのデジタル化。	

（6）快適な観覧環境の提供

高齢者，身体障害者，外国人等への対応

各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的（障害者用）トイレ，エレベーター（エスカレーター），スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子，ベビーカーの貸出
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料金

を割引（国立新美術館を除く。）

その他、東京国立近代美術館工芸館では、観覧者の休憩のため、工芸館の雰囲気に合わせて北欧のデザイナーによる椅子を展示室に配置した。

京都国立近代美術館では、英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：（財）大阪21世紀協会）に展覧会情報を掲載した。

国立西洋美術館では、風除扉の自動扉化、杖の貸出、国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能の整備等の取組を実施した。

国立国際美術館では、貸出用拡大鏡（16個）、授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し、幼児向け絵本400冊を所蔵作品した。また、同キッズルームでは託児サービスを実施し、快適な鑑賞環境の確保に努めた。

国立新美術館では、授乳室の整備、点字ブロック及び点字表示（エレベータ内他）の整備、補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置、館内ディスプレイによる展覧会や講演会等の情報の表示、身障者用駐車場の整備等の対応がなされているが、これらに加え託児サービスの試行、案内サインの充実、オストメイト対応のトイレの設置、貸出用車椅子及びベビーカーの数の充実などの取組を行った。

展示、解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット、フロアプラン、ミュージアムカレンダー等の配布

その他、東京国立近代美術館本館では、平成19年4月から所蔵作品展に音声ガイドを導入した。

工芸館では、作品のキャプションについて、サイズの拡大、作品名のふりがなを記載、素材・技法を明記するなどの改善を行った。

フィルムセンターでは、展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布（「スチル写真でみる日本の映画女優」（3回）、「チャップリン秘書・高野虎市遺品展」（1回）、「マキノ映画の軌跡」（1回）、計5回）した。また、携帯電話サイトによる上映番組案内等の発信を実施した。「映画の広場」において、大型ディスプレイにより、上映作品や展覧会情報を提供した。

国立西洋美術館においては、上野公園の諸施設と連携したイベントにおける講演会及びパンフレット無料配布の実施、音声と動画を併用した所蔵作品展示ガイドの試作品の制作、重要文化財指定に伴い作成した「建築探検マップ」の無料配布などの取組を実施した。また、OPEN museum事業として、本館ロビーにおけるガイド映像コーナーの新設、クイズラリー、所蔵作品展作品リストやパンフレット等の配布などの取組を実施したほか、「国際博物館の日」を記念し、上野地区の諸機関と連携してミュージアムラリーを実施し、参加者へのプレゼント（抽選）として、所蔵作品展無料観覧券を提供した。

国立国際美術館においては、作品紹介キャプションを縦型に拡大し、活字をより見やすくした。

国立新美術館においては、「安齊重男の“私・写・録”1970-2006」展鑑賞ガイドブック「アートのとびら vol. 2」（日英併記）や、「アーティスト・ファイル2008 - 現代の作家たち」展鑑賞ガイドブック「ちいさなアーティスト・ファイル2008」（日英併記）を配布した。

入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日）及び国際博物館の日（5月18日）の観覧料の無料化（国立新美術

館を除く。)を実施するとともに、開館時間等については、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展について、高校生及び18歳未満の方の観覧料を無料とすることを決定し、平成20年4月1日を会期に含む展覧会から実施した。

その他の各館における取組は以下のとおりである。

(ア) 東京国立近代美術館(本館・工芸館)

- ・本館・工芸館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展示室を何度でも観覧できるMOMATパスポートの販売
- ・年始は1月2日(「美術館へ行こう～A Day in the Museum」の実施)から開館
- ・フィルムセンターにおいて、1日の上映回数を弾力化

(イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市駐車場公社と連携による駐車場料金の割引
- ・関西文化の日(11月17日、11月18日)の観覧料の無料化

(ウ) 国立西洋美術館

- ・春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間の延長、共催展及び自主企画展における割引引換券及び前売券の発行、クレジットカードによる入館券販売、夏休み子ども音楽会「上野の森文化探検」(主催:東京文化会館(東京都歴史文化財団)ほか)参加者の所蔵作品展観覧料金無料(平成19年8月3日(金)のみ)等の取組の実施
- ・OPEN museum 事業の一環として、美術館無料開放日「FUN DAY」を開催し、ギャラリートークや建築ツアー等美術館を楽しむためのプログラムを実施(期間:平成19年5月12日(土)～5月13日(日))
- ・OPEN museum 事業の一環として、「Museum Xmas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」(期間:平成19年11月23日(金・祝)～平成20年1月6日(日))における、前庭のイルミネーション装飾やポストカード等のプレゼントなど各種プログラムの開催と、前庭開放時間の延長を実施
- ・OPEN museum 事業の一環として、光彩時空 07 光はミュージアムから - の期間中(期間:平成19年10月30日(火)～11月4日(日))、毎日午後8時まで所蔵作品展の夜間開館を実施
- ・Suica 電子マネーサービスをチケット販売、ミュージアムショップ及びレストランにおいて導入
- ・「国際博物館の日」に、建築ツアーを実施するとともに上野地区の美術館・博物館を巡るミュージアムラリーや上野のれん会各店舗の割引等の特典が受けられるクーポンサービスを実施
- ・昭和の日(4月29日)、FUN DAY(5月12、13日)、国際博物館の日(5月18日)、の所蔵作品展観覧料の無料化

(エ) 国立国際美術館

- ・昭和の日(4月29日)、国際博物館の日(5月18日)、関西文化の日(11月17日、18日)の所蔵作品展観覧料の無料化
- ・文化の日(11月3日)の所蔵作品展及び企画展観覧料の無料化
- ・企画展開催期間中の金曜日に夜7時まで夜間開館を実施。
- ・ゴールデンウィーク期間中の5月1日を臨時開館
- ・レストランで昼食をとり、再度入場したいという要望にこたえ、当日に限り再入場を

許可

(オ) 国立新美術館

- ・「平成19年度(第11回)文化庁メディア芸術祭」の観覧料の無料化
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・当館使用の公募団体展との観覧料の相互割引
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・ペア観覧券等による観覧料割引
- ・円滑な入場のため日時指定券を導入
- ・「モディリアーニ展」での高校生無料観覧日の設定

キャンパスメンバーズ制度の実施

平成18年12月より、国立美術館全体の事業として発足した、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」について、メンバー校は35校、各館利用者数は38,539名となった。メンバー校の学生及び教職員が制度を有効に活用できるようポスターを制作し、加盟大学等へ送付する等の取組を行い、周知広報に努めた。

ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、東京国立近代美術館工芸館における開館30周年記念オリジナルグッズの制作・販売、京都国立近代美術館では、ワンコインで購入可能な商品の販売、国立西洋美術館では、薔薇のチョコレートショップ「メサージュ・ド・ローズ社」との連携による「ばら」の絵からイメージしたチョコレートなどオリジナルな新商品の開発、国立国際美術館では、オリジナルグッズの充実のほか、企画展に合わせた書籍販売等来館者のニーズに合わせた運営、国立新美術館では、ミュージアムショップに併設しているミニギャラリー(SFTギャラリー)展を6回開催するなどの取組を行った。

また、国立西洋美術館では国立美術館巡回展の実施に伴い、会場である姫路市立美術館と松本市美術館でもグッズを販売し、好評を得た。

レストランについては、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館では、企画展に関連した料理をメニューに取り入れた。国立新美術館では、展覧会に合わせたメニューの提供のほか、混雑緩和のため時間指定券を配布するなど、利用環境の向上に努めた。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 美術作品の収集

館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館(本館)	57	184,633	86	9,633	243
東京国立近代美術館(工芸館)	20	7,016	58	2,671	132
京都国立近代美術館	49	144,729	668	9,345	2,167
国立西洋美術館	16	190,530	1	4,515	13
国立国際美術館	32	290,451	40	5,825	76
計	174	817,359	853	31,989	2,631

館名	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	285	209,323	2,834	51,594	7,048

ア 収集作品の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

1950年前後の欧米の代表的作家の絵画作品，比較的手薄な昭和戦前期の日本画など歴史的な作品の補完，近年新たに勃興しつつある，比較的若い世代の作家による映像作品や写真作品，パブリックスペースに設置する作品の収集に努めた。

また，小茂田青樹，ポロック，宮脇愛子，谷中安規らの入手困難な作例を含め，海外の代表的作家の作品，日本人作家については歴史的作品，現存のベテラン作家，中堅・若手作家の作品を各分野に渡りバランス良く購入した。

ポロックの作品は，世界的にも希少なものであるにもかかわらず，作家の遺族が運営する財団と直接交渉することにより市場価格より低い価格で購入を実現できた。

ジュリアン・オピーの映像作品「日本八景」を購入し2階ロビーに設置するなど，メディアアートの収集・展示に取り組むとともに，パブリックスペースにおける展示作品の充実を図った。

寄贈作品については，岸田劉生の「麗子六歳之像」等，今後の美術館活動に資する作品が寄贈された。

谷中安規作品の購入・寄贈計54点の収集は，所蔵者との永年にわたる信頼関係の醸成の成果である。

(工芸館)

明治，大正，昭和初期の工芸作品を拡充（西浦圓治等），戦後の代表作（岡部嶺男・八木一夫等）の系統的な収集，近代の主要な外国作家（ハンス・コパー等）の作品の収集，近代デザイン史上の重要作品（リヒャルト・レーマーシュミット，アルヴァー・アールト等）の系統的な収集という方針に基づき収集を行った。

購入作品については，平成16年度に開催した「非情のオブジェ」展出品のボディル・マンツや高橋禎彦，高見澤英子，上原美智子らの現代作家の作品と，大正から昭和期を代表した藤井達吉の大正期の金工作品，近代デザイン史上で重要な役割を担ったアルヴァー・アールトのデザイン作品を収蔵した。

寄贈作品については，今日の伝統工芸を担ってきた陶芸の井上萬二，三浦小平二，染織の小宮康孝，戦後の日展を代表する漆芸の高橋節郎や中川哲哉，染織の木村雨山の主要作品のほか，漆芸の黒澤千春や染織の釜我敏子ら現代作家の作品の寄贈を受けたほか，創作的な人形の草創期である昭和初期頃から戦後の日展にかけて活躍した五味文郎の代表作を受け入れた。

(フィルムセンター)

アメリカ・ロサンゼルス全米日系人博物館から，国内において残存が確認されていない貴重な戦前日本劇映画を含む124本を受贈した。また，ユニフランスから，近年のフランス映画の日本語字幕付プリント199本を受贈した。川喜多記念映画文化財団からは，これまで残存が確認されていなかったマキノ正博他監督「肉体の門」や，日本の文化記録映画史に大きな足跡を残した柳沢寿男監督作品の原版等を受贈した。

映画関連資料については，フランス映画社から外国映画雑誌3,662冊を受贈し，アメリ

力、フランス、イギリスの主要な映画雑誌がまとまった形で同時に寄贈される初めての例となった。株式会社日本映画新社からは映画カメラ等の撮影関連機材を、株式会社育映社からはフィルム焼付け機などの現像関連機材の寄贈を受け入れた。

(イ) 京都国立近代美術館

体系的展観のために補うべき重要作家の作品収集に努めるとともに、関西を拠点として活躍した現代美術家の作品収集が遅れている点を配慮し、重点課題とした。

購入作品については、日本画では入江波光、岡本神草、村上華岳など、油彩画では麻生三郎、三島喜美代、横尾忠則など、陶芸では八木一夫、加守田章二などを購入し、所蔵作品の欠落部分を補うことが出来た。また、森村泰昌、イチハラ・ヒロコ+箭内新一など現代美術の作品を収集した。

寄贈作品については、平成18年度から19年度にかけて池田満寿夫の遺族から主要作品を網羅した809点の寄贈を受け入れ、日本で最も充実した池田満寿夫コレクションを形成することができた。

(ウ) 国立西洋美術館

購入作品については、昭和55年度購入のディルク・パウツ派「荊冠のキリスト」の対作品であった「悲しみの聖母」を購入し、二連祈念画の形式を再現することが可能になった。また、戦前に日本へもたらされた旧松方コレクションのセガンティーニ「羊の剪毛」を購入した。15世紀から19世紀にわたるドイツ・フランドル・フランスの版画を購入し、版画コレクションを充実した。

寄贈作品については、旧松方コレクションの素描作品「兵士と家族」（作者不詳）の寄贈を受け入れた。

(エ) 国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、1945年以降の日本の現代美術の系統的収集、1945年以降の欧米の現代美術の系統的収集、国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集を行った。

既に収蔵済みの作品との対比という点からも購入が望まれていた舟越桂の彫刻作品「傾いた雲」を購入したほか、美術作品購入費の本部留保分を活用し、モーリス・ルイスの大作「Nun」を収蔵した。また、アントン・ヘニング等の現代の意欲的作品を購入した。

寄贈作品については、これまで収蔵する機会に恵まれなかったヨーゼフ・ボイスの作品について、まとまった作品が寄贈された。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

本館では、比較的堅牢な彫刻作品の一部を外部の民間倉庫に保管することで必要スペースを確保してきたが、今年度は絵画作品の一部についても移送せざるを得なくなった。

工芸館では、保管スペースの確保がやや困難となった期間が生じたが、ケースの効率的な活用等の工夫で対応した。なお、企画展準備に際して保管スペースの確保が困難となることがあり、計画的な対応が必要となる。

フィルムセンターでは、毎年度のフィルムの収集本数を勘案すると、今後5～6年程度で収納能力の限界に達することが見込まれている。仮に、大量の寄託申し入れがあった場合な

どは今中期計画期間中に収納能力の限界に達することも考えられるほか、フィルムの種別毎に収納の部屋を区分して温湿度管理を行う必要があることから、同一種類の大量フィルムの寄託等があった場合は、収納限界に達する前にも管理上の困難が生じることも予想される。また、可燃性フィルムの保存については、原版としての重要性和素材の特殊性とを斟酌して、最適な保存施設を確保する必要がある。

なお、内部の独立検討会において、収蔵施設・設備等の拡充についても併せて検討を行った。

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館に隣接する「キャンプ淵野辺留保地」の利用について、相模原市、宇宙航空研究開発機構及び東京国立近代美術館の3者で将来的な利用計画について協議を行った。

イ 京都国立近代美術館

平成19年度から平成20年度にかけて行われる、収蔵ラック改修工事の1年目が完了し、収蔵場所にわずかながら余裕ができた。

ウ 国立西洋美術館

平成19年度から20年度にかけて新館空調設備改修工事を実施し、収蔵庫及び展示室の環境を向上する。平成19年度は改修方針を決定し設備・建築設計を行い、撤去工事を実施した。

エ 国立国際美術館

既に収蔵スペースの許容量に達している状況であるが、収納方法を工夫し作品の保存環境を維持している。今後、新たな収納ケースの整備等、対応の検討が必要となる。

保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

ア 東京国立近代美術館

(本館)

組織体制の変更に伴い、防災訓練のマニュアルの見直しを検討した。

(工芸館)

防火ダンパーの増設や老朽化した箇所消防設備を整備・充実させた。

(フィルムセンター)

消防用設備、蓄電池設備、自家発電設備の点検を年2回ずつ実施し、不具合等を発見した場合は直ちに修理、整備を実施している。また、事務室内の非常放送設備には、非常時の取扱いに困らないように取扱説明書を掲示している。

また、保安警備管理業務に新たに現場責任者を置くことにより、定期巡回及び監視等の強化を図った。

収蔵庫の消火設備は、フィルムセンターでは二酸化炭素消火設備を設置、相模原分館保存庫ではハロゲンガス消火設備を設置し、万全を期している。

イ 京都国立近代美術館

消防設備の定期的な保守を実施するとともに、職員や看視員を含めた消防訓練を行なった。

ウ 国立西洋美術館

新館空調設備改修工事により、新館展示室のうち2つを準収蔵庫として災害等の非常時に対応可能な仕様に改良する方針を決定した。

また、震災対策として、所蔵彫刻作品のための免震滑り板付き台座の製作を行った。

エ 国立国際美術館

各種の防災設備による防災対策を維持するための点検を実施した。また、新築移転から3年目を迎え、法令により定められた特殊建築物及び電気系統の綿密な点検を実施し、維持管

理に努めた。併せて、職員、警備員、看視員等による全館避難訓練を実施した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

東京国立近代美術館

絵画38件、水彩・素描16件、版画7件、彫刻1件、工芸5件、映画フィルムデジタル復元4本、映画フィルム洗浄1本

(本館)

状態の脆弱さから展示できなかった石山太柏、三田康らの作品について大規模修復を実施し展示を可能にした。

外部の保存修復の専門家と連携し、洋画の全点点検を開始するとともに、作品貸与時の点検・梱包立ち合い補助を試験的に依頼した。大規模な修復に際しては、2人以上の外部の専門家から所見を得ることとした。

(工芸館)

展示等の活用の頻度が高くかつ重要な作品である染織作品5点の現状保存修復を行った。稲垣稔次郎の型染作品「結城紬地型絵染着物 竹林」等4点は、染料が弱いうえに脱色があり金箔押しの装飾もあることで慎重な作業となったが、シミや黴、汚れの修復や丸洗いによる現状保存修復がなされた。中村勝馬の友禅作品「一越縮緬地友禅留袖 雲文」は、酸化変色と汚れと黴が全体におよび生地が弱っているために時間をかけてより慎重な作業を行った。

染織作品は、緊急度の高い作品から計画的に現状保存修復を行っており、外部の専門家とともに綿密な作品点検と修復計画の策定を検討した。

(フィルムセンター)

映画フィルムのデジタル復元、洗浄のほか、ノイズリダクション等47本、不燃化作業91本を実施した。

最初期の日本アニメーション映画「なまくら刀」(1917年)及び「浦島太郎」(1918年)のデジタル復元・染色復元を実施した。

フィルムとSP盤レコードを同期させて再生するレコード・トーキー作品「児童唱歌映画 村祭」(1929年)について、画・音両方のデジタル復元を行った。また、レコード・トーキー作品「国歌 君か代」(1931年)については、音をデジタル処理する一方、画については本来の映写スピードである秒間16コマ用のフィルムと、秒間24コマ用のフィルムの2本を作成し、それぞれをデジタル処理して相互比較を行った。

日本文化記録映画「アジアはひとつ」(1973年)について、劣化したサウンド用磁気テープを復元するとともに、上映用ポジプリントの復元を行った。

初の17.5mmフィルムの復元となった「赤垣源蔵」(1936年)について、35mmフィルムによる復元を実現した。

日本劇映画「忠治活殺剣」(1936年)について、映写等により著しく劣化した所蔵無声版16mmプリントと、プラネット映画資料図書館より借用した可燃性35mmプリントを、カット単位で綿密に照合し、最長版の作成を行った。

京都国立近代美術館

絵画78件、水彩・素描5件、版画16点

展覧会開催のため、平成18年度から19年度にかけて当館に寄贈された池田満寿夫の版画作品809点のうち約半数を修復した。

国立西洋美術館

絵画 2 件，彫刻 1 5 件，資料・その他 5 件

マツォーラ「ウェヌスとアモル」の修復処置を行い、「パルマ展」に出品した。また，巡回展に出品する絵画彫刻作品の修復処置に時間を掛けた。このほか，長期間，所蔵作品展に出品していた彫刻作品の表面保護処理を行っている。前庭彫刻は 2 年おきに表面保護処置を行っている。

所蔵作品の修復に当たっては，外部の専門家との連携により作業を実施した。

国立国際美術館

絵画 1 件，水彩・素描 3 件，版画 1 6 件

「開館三十周年記念展」の開催に先立ち，当館の所蔵作品全体を再確認し，展示に使用する作品及び早急な修復対応が必要な作品について修理修復を実施した。特に紙支持体作品については，紙に関する作品を専門とする外部の修復家と連携し，適切に修理修復を行った。

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は，以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・所蔵作品 9 0 点について音声ガイドの作成にあたっては，担当者が改めて作品の前でディスカッションを重ねるなどして新知見を導き出すとともに，安易に専門用語を用いることなくそれを表現する手法についての研究を実施

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・加山又造の初期作品の修復を機に，加山の実験的技法についての所見を得た
- ・藤田嗣治作品をパリの日本文化会館に貸与する際に，東京芸術大学と連携して詳細な調査を行い，作品の過去の修復履歴などについての新知見を得た

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・所蔵作品展音声ガイドを導入
- ・洋画の全点点検により作品状態がより詳細に把握され，迅速な対応が可能になるなど，作品保管の質が向上
- ・外部の専門家と連携し，木彫作品の展示期間，展示条件などについて，保存上の観点からのガイドラインを策定

(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・近代工芸史を構築するに足る多岐におよぶ多くの所蔵作品に関して，その特質や位置づけ，作家の研究を実施

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・漆芸や染織，金工，人形等の現状保存修復を中心に，各素材分野の研究者等と提携しつつ調査研究を実施

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・所蔵作品の公開・展示や展覧会への貸与等，当館事業の推進と近代工芸の普及・理解へ反映

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・ マキノ雅広監督に関する調査研究
- ・ 今村昌平監督と黒木和雄監督に関する調査研究
- ・ 川島雄三監督に関する調査研究
- ・ 日本の映画女優(スチル写真)に関する調査研究
- ・ インド映画史に関する調査研究
- ・ ヨーロッパ映画に関する調査研究
- ・ 日本の文化・記録映画に関する調査研究
- ・ 1930年代アメリカ映画に関する調査研究

(イ) 保管・修理に関する調査研究

<映画フィルムの保管に関する調査研究>

- ・ 小型映画フィルムの適切な保管とカタログギングに関する研究
- ・ 可燃性フィルムの適切な保管に関する研究
- ・ 近赤外分析法によるフィルムの劣化測定に関する研究
- ・ 多様なフィルムに対応した調査カードのフォーマットに関する研究

<映画フィルムの修理に関する調査研究>

- ・ フィルムスキャニングにおけるフィルム素材の選択に関する研究
- ・ 染色フィルムの復元に関する研究
- ・ 音の復元におけるフィルム素材の選択に関する研究
- ・ レコード・トーキー作品における映写速度と音復元の関係に関する研究
- ・ シネテープの復元に関する研究
- ・ 17.5mmフィルムの復元に関する研究
- ・ 9.5mmフィルムの復元における適切な画郭復元に関する研究
- ・ 映画関連資料に関しては、新たにプレス資料のカタログギングに着手し、日本の映画流通システムの中で作られてきたプレスシート・映画パンフレット・チラシ・試写状といったさまざまな形態を持つプレス資料の分類法と整理方法について研究を実施

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

<映画フィルムの保管における反映>

- ・ 8mmフィルムや9.5mmフィルムの調査態勢の確立と、荻野茂二作品等所蔵作品のカタログギングに反映された。
- ・ フィルム調査カードのフォーマット変更と、データ入力の効率化、データ内容の精緻化に反映された。

<映画フィルムの修理における反映>

- ・ 「なまくら刀」(1917年)、「浦島太郎」(1918年)のデジタル復元および染色復元に反映された。
- ・ 「沓掛時次郎」(1954年)等の音復元に反映された。
- ・ レコード・トーキー作品「国歌 君か代」(1931年)の復元に反映された。
- ・ シネテープを音原版とする「アジアはひとつ」(1973年)の復元に反映された。
- ・ 17.5mmフィルムを原版とする「赤垣源蔵」(1936年)の復元に反映された。
- ・ 9.5mmフィルムを原版とする「文福茶釜」(1932年)等の復元に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・ 寄贈された池田満寿夫版画約 800 点の基礎調査を終了し、『所蔵作品目録・M & Y コレクション 池田満寿夫の版画』としてカタログレゾネを兼ねる所蔵作品目録を刊行

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・ 客員研究員と共同による写真作品の再分類整理システムの構築，展示に供するためのマッピング等の作業を継続
- ・ 寄贈された池田満寿夫版画約 800 点のうち，展示に供するため 350 点のマッピングを完了
- ・ 遺族の手に残された麻田浩作品約 200 点の点検，保存に向けての洗浄，簡単な修復を実施

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・ 「没後 10 年 麻田浩」展および「新収作品展 寄贈された M & Y コレクション 池田満寿夫の版画」展を開催。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・ 所蔵絵画作品，ヴァザーリ「ゲッセマネの祈り」の来歴に関する調査研究（フィレンツェ特殊美術館監督局との連携）
- ・ 所蔵絵画作品，グエルチーノ「ゴリアテの頭をもつダヴィデ」の来歴に関する調査研究（パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局，フィレンツェ特殊美術館監督局との連携）
- ・ 所蔵イタリア・ルネサンス版画に関する調査研究（チューリヒ工科大学版画素描館との連携）
- ・ 寄託絵画作品，ムンク「坑夫たち」に関する調査研究（オスロ市立ムンク美術館との連携）
- ・ アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ「ウェヌスとアモル」の作者および来歴に関する調査研究（パルマ・ピアツェンツァ歴史美術民俗文化財局との連携）
- ・ ルカス・クラナハ「ゲッセマネの祈り」の図像学に関する調査研究
- ・ バウツ派「荊冠のキリスト」の作者および来歴に関する調査研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

< 保存環境整備のための調査 >

- ・ 空気汚染対策：館内の空気汚染調査を継続して実施。また，館内施設の各種工事に先立って塗料・接着剤等の安全性を確認し，施工後は空気測定により有害物質を調査
- ・ 虫害対策：年 4 回，館内にトラップ約 120 基を配置して生物調査を実施し，季節ごとの害虫の発生状況を把握し，必要に応じて清掃等を実施
- ・ 作品貸出に伴う環境調査：貸出先美術館のファシリティレポート，図面および温湿度記録をもとに事前の環境調査を行うとともに，貸出作品および輸送箱にデータロガーを装着して貸出中の温湿度データを記録し，返却後にデータの分析を実施

< 保存修復に関する調査研究 >

- ・ これまで修復が行われなかった所蔵作品について，X 線撮影，顔料分析などの調査を実施，新しい事実が明らかになる成果を得た

- ・17年度より行っている屋内彫刻の免震化推進の過程で，外部研究者の協力により，簡易式免震滑り板の加震実験を計画。その成果は国立西洋美術館で平成21年度に開催予定の国際会議で発表の予定
- (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映
 - ・マッツォーラ作品の調査結果を「パルマ イタリア美術，もう一つの都」展図録に発表
 - ・ルカス・クラーナ八の「ゲッセマネの祈り」とヴァザーリ「ゲッセマネの祈り」の調査結果を，所蔵作品展のコーナー解説パネルにおいて発表
 - ・パウツ派「荊冠のキリスト」の来歴調査研究によって，市場に出ていたパウツ派の「悲しみの聖母」が「荊冠のキリスト」の対作品であることが明らかとなったため，平成19年度「悲しみの聖母」を購入

エ 国立国際美術館

- (ア) 所蔵作品に関する調査研究
 - ・メディアアートに関する収集・保管について，客員研究員として招いている研究者と検討を実施
- (イ) 保管・修理に関する調査研究
 - ・「開館三十周年記念展」開催にあたり，主要な作品の保管状況を調査。特に紙に関する専門家と共同で版画の保管状況を調査，いくつかの作品については，額の裏板に含まれる化学物質が紙に変色等の悪影響を及ぼす可能性があることが判明し，早急に作品の修復を行い，無害な素材の額で適切な保管を実施
- (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映
 - ・館内に害虫捕獲器を多数設置し，害虫の分布，種類を調査し，保管に活用
 - ・作品の保管状況の調査結果により作品毎に適切な額装を施し，長期間保存，展示及び貸出しに対応できるよう対策を実施

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

研究紀要，学術雑誌，展覧会刊行物，学会等での発信

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において，展覧会図録（計39冊），研究紀要（計3冊），館ニュース（計6種，26冊発行），所蔵品目録（計1冊）等の刊行物により，研究成果を発信した。

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館本館	5	1	6	0	6	0
東京国立近代美術館工芸館	3			0	3	0
東京国立近代美術館フィルムセンター	0			0	1	0
京都国立近代美術館	10	1	1	1	0	0
国立西洋美術館	4	1	4	0	5	0
国立国際美術館	7	0	6	0	6	0
国立新美術館	10	0	3	-	7	0
計	39	3	26	1	28	0

注 「パンフレット・ガイド等」には，小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
「学校と美術館の連携に関する取組と問題点について」	群馬大学・群馬県教育委員会連携プロジェクト	主任研究員 一條彰子	平成20年3月1日	群馬県庁	
「発現するドキュメンテーション revised」	(社)情報処理学会デジタルドキュメント研究会シンポジウム	主任研究員 水谷長志	平成19年11月22日	日立製作所大森第二別館講堂	
「独立行政法人国立美術館における情報連携の試み」	慶應義塾大学学事振興資金ワークショップ	主任研究員 水谷長志	平成19年11月19日	同大学三田キャンパス東館6階	
「シンポジウム：発現するドキュメンテーション - 蓄積と検索から表現へ - のためのイントロダクション」	アート・ドキュメンテーション学会年次大会シンポジウム	主任研究員 水谷長志	平成19年6月23日	国立新美術館講堂	
「1930年代の日本におけるシュルレアリスム受容の状況について アヴァンギャルド洋画研究所を中心に」	国際シンポジウム「浮遊するモダニティ：20世紀前半における広州，上海，東京での美術運動と都市文化」	主任研究員 大谷省吾	平成19年12月23日	広東美術館	
「沖縄を展示する」	「写真0年 沖縄」展シンポジウム	主任研究員 鈴木勝雄	平成19年11月4日	沖縄県立美術館講堂	
「高度文明国家におけるクラフトの位置」	チョンギョ国際クラフト・ビエンナーレ展国際シンポジウム	企画課長 松本透	平成19年10月3日	ラマダ・プラザ・ホテル（韓国・チョンギョ市）	

「デジタル・メディアが新しくなった時代とその後」	国際シンポジウム「展開と拡張 - メディア・アートの現在と未来」	企画課長 松本透	平成 19 年 11 月 15 日	ソウル私立歴史博物館講堂	
英国現代陶芸研究事情 バーナード・リーチ, ルーシー・リー, ハンス・コパーをめぐって	東洋陶磁学会	工芸課長 金子賢治	平成 20 年 1 月	東京国立近代美術館講堂	120 名
日本の映画著作権	第 63 回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議 2007	主任研究員 栩木 章 (発表者名 = とちぎあきら)	平成 19 年 4 月 11 日	フィルムセンター大ホール	244 名
フィルムセンターにおける映画フィルムの収集と、海外に残存する日本映画の調査事業	早稲田大学現代政治経済研究所	主任研究員 栩木 章 (発表者名 = とちぎあきら)	平成 19 年 7 月 26 日	早稲田大学 3 号館 2 階 第 1 会議室	100 名
フィルム・アーカイブの仕事と現状	「映画の復元と保存に関するワークショップ」運営委員会	主任研究員 栩木 章 (発表者名 = とちぎあきら)	平成 19 年 9 月 2 日	神戸映画資料館	50 名
映画フィルムの保存と上映フィルムセンターの事例	映画美学校, コミュニティシネマ支援センター	主任研究員 栩木 章 (発表者名 = とちぎあきら)	平成 19 年 11 月 20 日	映画美学校	40 名
フィルム・アーカイブから見た C I E 映画	東京大学情報学環	主任研究員 栩木 章 (発表者名 = とちぎあきら)	平成 19 年 12 月 8 日	東京大学武田ホール	60 名
アニメの源へ 日本アニメーション映画 (1924 ~ 1952)	シネマテーク・ケベコワーズ	主任研究員 栩木 章	平成 20 年 2 月 29 日	シネマテーク・ケベコワーズ	30 名
フィルム・アーカイブにおける映画復元	立命館大学映像学部現代 GP, 立命館大学アート・リサーチセンター	研究員 板倉史明	平成 19 年 10 月 1 日	立命館大学衣笠キャンパス	100 名
「映画復元における倫理と創造性」	映像社会学研究会	研究員 板倉史明	平成 20 年 2 月 23 日	京都造形芸術大学	50 名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「1980 年代 ポストモダンと美術」他	企画課長 松本透	『日本近現代美術史事典』(東京書籍)	平成 19 年 9 月
「デジタル・アーカイブの現在」他	主任研究員 水谷長志	『日本近現代美術史事典』(東京書籍)	平成 19 年 9 月
「戦後のモダン・スタイル」他	主任研究員 大谷省吾	『日本近現代美術史事典』(東京書籍)	平成 19 年 9 月
「美術館建築」	研究員 保坂健二郎	『日本近現代美術史事典』(東京書籍)	平成 19 年 9 月
「戦時下のヨーロッパ美術研究」	主任研究員 蔵屋美香	『美術と戦争 1937-1945』(国書刊行会)	平成 19 年 12 月
「裏面から見た戦争記録画」他	主任研究員 大谷省吾	『美術と戦争 1937-1945』(国書刊行会)	平成 19 年 12 月
「イギリスの戦争画とケネス・クラーク」	研究員 保坂健二郎	『美術と戦争 1937-1945』(国書刊行会)	平成 19 年 12 月
「絵画の下半身 1890 年 ~ 1945 年の裸体画問題」	主任研究員 蔵屋美香	『美術研究』329 号 (東京文化財研究所)	平成 19 年 9 月

「多様な視点を持つネットワーク」他	主任研究員 一條彰子	『SoVA2007 交響体，連動するアート教育』（平成 17-19 年度科学研究費補助金基盤研究 B 研究成果報告書）	平成 20 年 3 月
「グループ・ディスカッション記録」		『第 22 回学芸員研修会報告書 / ボランティアの現状と理念』（全国美術館会議）	平成 20 年 1 月
「鑑賞研修のこれまでとこれから」		『平成 19 年度研究局 + 研修局報告書』（東京都図画工作研究会）	平成 20 年 3 月 25 日
「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」		『生涯学習情報ファイル』追補 146-148 号（生涯学習・社会教育行政研究会）	平成 20 年 3 月 10 日
「1900 年代から 30 年代における日中間の美術交流について」	研究員 中村麗子	『鹿島美術研究』年報 24 号別冊（鹿島美術財団）	平成 19 年 11 月
「再考 斉藤豊作・太田喜二郎・児島虎次郎」		『明日を拓く日本画 堀越泰次郎記念奨学基金 奨学生作品集』	平成 19 年 10 月
単行図書	（監修） 副館長 尾崎正明 （著） 主任研究員 鶴見香織	『もっと知りたい東山魁夷』（東京美術）	平成 20 年 3 月
「飯塚小かん齋」	主任研究員 鶴見香織	『群馬新百科事典』（上毛新聞社）	平成 20 年 3 月
「エフェメラへ向かうー美術館の中のライブラリでライブラリアンが愛すべき難敵」	主任研究員 水谷長志	『情報メディア学会ニューズレター』15 号	平成 19 年 8 月
「韓国国立現代美術館美術資料室と芸術の殿堂芸術資料館を訪ねて」	主任研究員 水谷長志	『アート・ドキュメンテーション通信』75 号	平成 19 年 10 月
「書評 Art Museum Libraries and Librarianship」	主任研究員 水谷長志	『アート・ドキュメンテーション通信』74 号	平成 19 年 7 月
「映像と沖縄のダイアログ」	主任研究員 鈴木勝雄	美術館開館記念展図録『沖縄文化の軌跡：1872-2007』（沖縄県立博物館・美術館）	平成 19 年
古賀フミ論及び作品解説	主任研究員 今井陽子	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 55 号（朝日新聞社）	平成 19 年 6 月 24 日
山田貢論及び作品解説	主任研究員 今井陽子	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 62 号（朝日新聞社）	平成 19 年 8 月 12 日
前田昭博論	主任研究員 今井陽子	日本海新聞	平成 19 年 11 月 21 日
八幡はるみ論	主任研究員 今井陽子	八幡はるみ-HEAVEN-(イムラアートギャラリー)	平成 19 年 12 月 1 日
高村豊周の戦後の作品について：東京国立近代美術館の所蔵作品より	主任研究員 木田拓也	『宗桂会だより』第 21 号（宗桂会）	平成 19 年 12 月 20 日
増田三男 写生し，創作した模様を刻む	主任研究員 木田拓也	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 53 号（朝日新聞社）	平成 19 年 6 月 10 日
加藤土師萌 現代に蘇った，色絵磁器の高度な技法	主任研究員 木田拓也	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 44 号（朝日新聞社）	平成 19 年 4 月 8 日
塚本快示論及び作品解説	主任研究員 唐澤昌宏	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 44 号（朝日新聞社）	平成 19 年 4 月 8 日
長野埜志《竹文姥口釜》	主任研究員 唐澤昌宏	『淡交』通巻 754 号	平成 19 年 8 月 1 日
三代山田常山論及び作品解説	主任研究員 唐澤昌宏	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 68 号（朝日新聞社）	平成 19 年 9 月 23 日
荒川豊藏《信楽水指》	主任研究員 唐澤昌宏	『淡交』通巻 759 号	平成 19 年 12 月 1 日

内藤四郎《草文銀小筥》	主任研究員 唐澤昌宏	『淡交』通巻 762 号	平成 20 年 3 月 1 日
大野昭和斎 木の魅力をひたすら訴えた良人	主任研究員 諸山正則	週刊朝日百科 週刊人間国宝 50(朝日新聞社)	平成 19 年 5 月 20 日
The History of the Modern Bamboo Basket	主任研究員 諸山正則	Japanese Bamboo Baskets Meiji, Modern, Contemporary (講談社インターナショナル)	平成 19 年 7 月
練馬の工芸作家たち	主任研究員 諸山正則 客員研究員 三上美和	「名作誕生 巨匠たちのアトリエ」展 図録(練馬区立美術館)	平成 19 年 10 月 27 日
大英博物館「わざの美 伝統工芸の 50 年」展開催報告	主任研究員 諸山正則	月刊文化財(第一法規株式会社)	平成 20 年 3 月 1 日
茶室の工芸学 現代工芸家の茶器 田口善国「とくさ蒔絵切貝水指」	主任研究員 諸山正則	淡交 第 753 号	平成 19 年 7 月 1 日
茶室の工芸学 現代工芸家の茶器 有岡良益「肥松盛器」	主任研究員 諸山正則	淡交 第 761 号	平成 20 年 2 月 1 日
鹿島一谷論及び作品解説	研究員 北村仁美	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 53 号(朝日新聞社)	平成 19 年 6 月 10 日
伊藤赤水論及び作品解説	研究員 北村仁美	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 67 号(朝日新聞社)	平成 19 年 9 月 16 日
茶室の工芸学 現代工芸家の茶器 金森映井智「象嵌鍍銅花器」	研究員 北村仁美	淡交 第 752 号	平成 19 年 6 月 1 日
三輪和彦の道程 本能的感知力の造形	工芸課長 金子賢治	陶説 652	平成 19 年 7 月
バーナード・リーチ再考	工芸課長 金子賢治 研究員 北村仁美	思文閣出版(単行書)	平成 19 年 9 月
青磁・三彩・無名異焼	工芸課長 金子賢治	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 67 号(朝日新聞社)	平成 19 年 9 月
鉄絵, 練上手, 常滑焼	工芸課長 金子賢治	『週刊朝日百科 週刊人間国宝』第 68 号(朝日新聞社)	平成 19 年 9 月
太田儔論 色彩と「木竹漆」	工芸課長 金子賢治	太田儔展図録(高松市美術館)	平成 20 年 3 月
フィルム・アーカイブによる映画保存の基本原則	フィルム・主幹 岡島尚志	小川紳介映画の彼方へ(武蔵大学社会学部メディア社会学科)	平成 19 年 11 月 20 日
日本写真保存センターが目指すもの	主任研究員 棚木 章(発表者名 = とちぎあきら)	日本写真家協会会報 135(日本写真家協会)	平成 19 年 6 月 20 日
フィルムセンターにおける非劇映画フィルムの収集	主任研究員 棚木 章(筆名 = とちぎあきら)	小川紳介映画の彼方へ(武蔵大学社会学部メディア社会学科)	平成 19 年 11 月 20 日
「第 63 回 国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議 2007」報告	主任研究員 入江良郎, 研究員 板倉史明	『映像学』79 号(日本映像学会)	平成 19 年 11 月
ヌーヴェル・ヴァーグの前に 1950 年代のフランスにおける短篇映画人『グループ・デ・トラント』とその次世代とのつながり	研究員 赤崎陽子	『映像学』78 号(日本映像学会)	平成 19 年 5 月

(イ) 京都国立近代美術館

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
------	----------	-----------	-------

「2006年の歴史学会 - 回顧と展望 - (近現代・美術)」	主任研究員 山野英嗣	『史學雑誌』(史學會)	第116編第5号(平成19年5月20日)
---------------------------------	---------------	-------------	----------------------

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
美術館におけるアーカイブの位置と可能性(基調報告)	美術史学会シンポジウム「学芸員の逆襲・ミュージアムの過去・現在・未来」	主任研究員 川口雅子	平成19年4月21日	東京都美術館講堂	150名
Seismic Isolation of the Gate of Hell(招待発表)	Colloquium, Seismic Mitigation for Museum Collections, 2007, J.Paul Getty Center, Los Angeles	主任研究員 河口公男	平成19年6月4日 6日	Suna and Inan Kirac foundation Pera Museum, Istanbul	80名
ワークショップ参加	Workshop, Inherent Vice: The Replica and its Implications in Modern Sculpture	主任研究員 河口公男	平成19年10月18日 19日	Tate Modern, London	50名
旧松方コレクションに由来するイタリア絵画の調査報告	美術史学会東支部例会	主任研究員 高梨光正	平成20年1月26日	東京藝術大学美術学部中央棟第一講義室	50名
モーリス・ドニ作《プシュケの物語》にみる古典主義	第58回美学会全国大会	研究補佐員 金澤清恵	平成19年10月8日	北海道大学	50名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
『L Art ラール』産業への芸術の応用,あるいはブルジョワジーのための美術雑誌	研究員 陳岡めぐみ	『比較文学研究』第90号	平成19年10月

(エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
須田悦弘作品展示空間における西洋的要素と東洋的要素の融合について	日本研究20周年記念シンポジウム	主任研究員 加須屋明子	平成19年10月27日	日本美術技術センター「マンガ」(クラブ, ポーランド)	100名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
日本万国博覧会一万博芸術再考	主任研究員 中井康之	『美術批評と戦後美術』(美術評論家連盟[編])	平成19年11月20日
見ることを考えさせる絵画(片山雅史論)	主任研究員 中井康之	『美術手帖』2007年5月号(美術出版社)	平成19年5月1日
最終楽章からの展開に向けて(菊畑茂久馬論)	主任研究員 中井康之	『美術手帖』2007年7月号(美術出版社)	平成19年7月1日
絵画の豊かさという名の深遠な世界(長谷川繁論)	主任研究員 中井康之	『美術手帖』2007年11月号(美術出版社)	平成19年11月1日
システムとしての「悟り」(菅木志雄論)	主任研究員 中井康之	『美術手帖』2008年3月号(美術出版社)	平成20年3月1日

(オ) 国立新美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
「版画展の今日 Prints Tokyo 2007 と第 75 回版画展から見えてくるもの」	『Prints Tokyo 2007』記念シンポジウム	副館長 三木哲夫	平成 19 年 4 月 8 日	東京都美術館	
「関西現代版画史をめぐって」	『版という距離』シンポジウム	副館長 三木哲夫	平成 19 年 10 月 14 日	京都芸術センター	
「国立新美術館の開館と今後の展望」	高知県立美術館連続講演シリーズ『ハードエッジ』	副館長 三木哲夫	平成 20 年 2 月 2 日	高知県立美術館	
「創作版画の展開をたどって」	『日本の版画 1941-1950 「日本の版画」とは何か』スペシャル講演会	副館長 三木哲夫	平成 20 年 2 月 9 日	千葉市美術館	
「日展 100 年の歴史について」	『日展 100 年記念特別対談』	学芸課長 福永治	平成 19 年 7 月 28 日	国立新美術館	
「美術の広がり」と表現」	東北芸術工科大学卒業・終了展レセプション	学芸課長 福永治	平成 20 年 3 月 26 日	東京都美術館	
「20 世紀美術とモネ」	『大回顧展 モネ 印象派の巨匠, その遺産』講演会	主任研究員 南雄介	平成 19 年 6 月 3 日	国立新美術館	136 名
「モネの遺産 - 20 世紀美術とモネ」	シンポジウム「モネ」	主任研究員 南雄介	平成 19 年 5 月 12 日	国立新美術館	
「『絶筆』という名の神話」	『見果てぬ夢 日本近代画家の絶筆』展記念講演会	主任研究員 平井章一	平成 19 年 6 月 10 日	兵庫県立美術館	
「国立新美術館の教育普及事業」	『アート・ミート・みなと 2008』シンポジウム「みなとく de 子どもとアート・ミート」	研究員 本橋弥生	平成 20 年 2 月 24 日	国立新美術館	
「ハール・ウェブレット変換とテクスチャ解析」	『アート・アンド・サイエンス研究会』	研究員 室屋泰三	平成 19 年 4 月 21 日	同志社大学東京キャンパス	
「絵画画像の色変化の計量の試み」	日本色彩学会第 38 回全国大会	研究員 室屋泰三	平成 19 年 5 月 19, 20 日	国立新美術館	
「絵画画像におけるテクスチャの色彩的特長の計量」	カラーフォーラム JAPAN2007	研究員 室屋泰三	平成 19 年 11 月 29 日	工学院大学	

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
「『日展 100 年』官展系譜の役割と近代美術の成果」	学芸課長 福永治	『新美術新聞』(美術年鑑社)	平成 19 年 7 月 21 日
「日展の 100 年」	学芸課長 福永治	『美術年鑑 平成 20 年版』(美術年鑑社)	平成 20 年 1 月

「没後 50 年 横山大観 - 新たな伝説へ - 」	学芸課長 福永治	『新美術新聞』（美術年鑑社）	平成 20 年 2 月 1 日
「大回顧展モネ」	主任研究員 南雄介	『新美術新聞』（美術年鑑社）	平成 19 年 4 月 11 日
「産業化の象徴「駅」に詩情を見いだした巨匠のまなざし」	研究員 西野華子	『読売ウィークリー』（読売新聞社）	平成 19 年 4 月 29 日
「『藤』クロード・モネ」	研究員 西野華子	読売新聞	平成 19 年 4 月 29 日
「エミリー・ウングワレー展 絡み合う白い線が象徴する生命力」	研究員 西野華子	『読売ウィークリー』（読売新聞社）	平成 19 年 3 月 9 日
「美術館におけるデジタルアーカイブの現状と課題 ~ 独立行政法人国立美術館の事例 ~ 」	研究員 室屋泰三	『画像情報メディア学会誌』（Vol. 61, No. 11）（画像情報メディア学会）	平成 19 年 11 月
「独立行政法人国立美術館における情報連携の試み 美術館情報資源の利活用 試案ならびに他関連機構との連携について」	研究員 室屋泰三	『東京国立近代美術館研究紀要』（第 12 号）（東京国立近代美術館）	平成 20 年 3 月

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館

『研究紀要』第 11 号（2007 年）より、収録論文のホームページ上への掲載を開始した。

（イ）京都国立近代美術館

メール討論会「今なぜ麻田浩なのか」を開催したほか、コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小論文を掲載展覧会ごとに掲載した。

（ウ）国立西洋美術館

ホームページにて「国立西洋美術館年報」及び「国立西洋美術館ニュース ゼフュロス」のバックナンバーの公開を行った。蔵書目録（OPAC）を公開し、国立西洋美術館の蔵書を検索することができるサービスを提供した。また、ホームページにおいて所蔵作品の紹介文を掲載したほか、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受け「国立西洋美術館所蔵作品データベース」を公開し、所蔵作品の検索や現在所蔵作品展に展示されている作品の確認を可能にするなど、所蔵作品展関連のコンテンツの充実を図った。

（エ）国立国際美術館

インターネットを通じ、「日経ネット関西版」, 「artscape」において現代美術及び展覧会に関する研究を紹介した。

（オ）国立新美術館

「国立新美術館ニュース」をホームページにおいて公開した。

エ その他

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

『読売新聞』都内版連載「近代美術の東京」により所蔵作品研究の成果を定期的に発信した。

各企画展に関連する研究成果を、『毎日新聞』（鬨光展）、『芸術新潮』（鬨光展）、

『新美術新聞』（鬘光展，「日本近代の彫刻」展，平山郁夫展，東山魁夷展），『美術の杜』（鬘光展），『趣味の水墨画』（東山魁夷展），『読売ウィークリー』（平山郁夫展），『文化庁月報』（「わたしいまめまいしたわ」展）ほかにおいて公表した。

（工芸館）

所蔵作品研究，企画展出品作品研究の成果を，月刊誌『淡交』（淡交社）と『銀座チャイム』（和光）に発表し，研究成果の公表と同時に展覧会広報につなげた。また，この3年間続けてきたイギリス現代陶芸研究者との共同研究の成果を踏まえた論文集が『バーナード・リーチ再考 スタジオ・ポタリーと陶芸の現代』（思文閣出版）として刊行された。

（フィルムセンター）

「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007」（平成19年4月）のシンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」第2セッション「日本の場合」（4月8日）でチェアを担当（主任研究員 入江良郎）した。

「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007」（平成19年4月）のシンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」第2セッション「日本の場合」（4月8日）で「日本の再生フィルム」に関する研究発表（主任研究員 岡田秀則）を行った。

「フィルムサイズで見る映写機の変遷」監修（主任研究員 入江良郎）を行った（『大人の科学マガジン』Vol.15 「大特集 まわれ！映写機」（平成19年4月，学習研究社））。

所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

（ア）パネル・ディスカッション「日本彫刻の近代」

開催日：平成19年11月8日

場所：東京国立近代美術館講堂

講師・パネリスト等：パネリスト 黒川毅弘（武蔵野美術大学彫刻科教授），田中修二（大分大学教育福祉科学部准教授），古田亮（東京芸術大学大学美術館准教授），松本透（当館企画課長），司会 大谷省吾（当館・企画課 主任研究員）

内容：日本近代彫刻の通史展開催を機に，第1部（田中・古田）では主に戦前，第2部（黒川・松本）では戦後の日本彫刻について諸種の問題点を摘出したのち，第3部では，日本における近代彫刻の成立時期・背景，および近代性の所在等について共同討議を行った。

聴講者数：73名

（イ）「岡部嶺男と工芸の近代」

開催日：平成19年4月22日

場所：東京国立近代美術館講堂

講師：金子賢治（東京国立近代美術館工芸課長）

内容：陶芸家・岡部嶺男の仕事を近代工芸史の流れにおいて位置づけ，その造形的意義を読み解く。

聴講者数：84名

（ウ）スライドレクチャー

開催日：平成19年9月2日

場所：東京国立近代美術館工芸館

講師：高橋禎彦（「所蔵作品展 現代のガラス」出品作家）

内容：初期から現在に至る自身の作風と意識の変遷を紹介し、今日のガラス造形の特徴を論ずる。

聴講者数：63名

この他、工芸館で研究者と作家による講演会を各1回行った。分かりやすさ・親しみやすさに重点をおいたボランティアガイド（タッチ&トーク）によって工芸愛好者の裾野を広げる一方で、今回のような工芸の現況を概観する試みは、制作・研究の両面に対する刺激となり、活発な論議が行われたのは有意義であった。

イ 国立西洋美術館

(ア) 「Fun with Collection 2007 見る楽しみ・知る喜び - 美術史・市場・修復編」

開催日：平成19年7月8日～8月19日

場所：国立西洋美術館講堂，本館・新館展示室，修復室，東京国立博物館，小山登美夫ギャラリー

講師・パネリスト等：国立西洋美術館教育普及室，高梨光正・大屋美那・河口公生（国立西洋美術館主任研究員），馬淵明子（日本女子大学教授），ゴウヤスノリ（ワークショップ・プランナー），佐藤厚子（国立西洋美術館客員研究員），畑中俊彦（クリスティーズ・ジャパン 顧問），瀬木慎一（総合美術研究所所長），福富太郎（キャバレー経営者），小山登美夫（小山登美夫ギャラリー），藤原徹（東北芸術工科大学教授）

内容：作品をじっくりと鑑賞し，知るために，美術史，美術市場，保存修復という三つの視点から作品に迫った。視点を定めることでこれまでにない新しい発見をもたらすことができた。

聴講者数：550人

ウ 国立国際美術館

(ア) 講演会「コレクションの楽しみ方」

開催日：平成20年1月26日

場所：国立国際美術館 地下1階 講堂

講師：島敦彦（国立国際美術館学芸課長）

内容：国立国際美術館の所属作品について，海外で紹介されている事例を紹介しながら解説するとともに，コレクションの楽しみ方について，広く理解をしていただく目的で講演を行った。

聴講者数：124人

(2) 国内外の美術館等との連携

シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

セミナー・シンポジウム名	第3回アジア次世代美術館キュレーター会議	開催日	平成20年3月11日～13日
場所	アヤラ美術館（フィリピン・マニラ市）他 主催：アヤラ美術館・国際交流基金	聴講者数	約20人 （公開フォーラム参加人数）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	会議参加者は5カ国（日本・韓国・中国・シンガポール・フィリピン）の12名。当館からは保坂健二郎研究員を派遣。		
セミナー・シンポジウム名	International Symposium	開催日	平成19年10月19～20日

仏名	Craft Heritage in Modern Japan		
場所	大英博物館講堂	聴講者数	延べ 300 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	基調講演：三代徳田八十吉(陶芸家, 重要無形文化財保持者) 発表・パネリスト：金子賢治(東京国立近代美術館工芸課長), 森口邦彦(染織家, 重要無形文化財保持者), 室瀬和美(漆芸家), エドモンド・デュ・パール(陶芸家), ニコル・クーリジ・ルーマニエル(セインズベリー日本藝術研究所所長) ほか		

(フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	第 63 回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議 2007	開催日	平成 19 年 4 月 7 日 ~ 4 月 12 日
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター	聴講者数	244 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	海外から 156 名(36 カ国, 88 機関), 国内から 88 名(招待者 68 名, 一般参加 20 名), 計 244 名の参加者を得た。 シンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」 基調講演:ジャン=ピエール・ヴェルシュール(シネヴォリュション) 第一セッション「さまざまな映画フィルム」:パトリック・ロックニー(ジョージ・イーストマン・ハウス) ほか 第二セッション「日本の場合」:草原真知子(早稲田大学) ほか 第三セッション「モノの映画史」:エルキ・フータモ(カリフォルニア大学ロサンゼルス校) ほか 3D(立体)映画に関する講演と上映:シュテファン・ドレスラー(ミュンヘン映画博物館)		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム ノイズレス, 「聴く」ということ	開催日	平成 19 年 4 月 7 日
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	110 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	カトリーヌ・グルー(美学美術史, リール大学), ロルフ・ユリウス(招聘アーティスト), 鈴木昭男(招聘アーティスト), 立命館大学仲間ゼミ学生代表(テーマ: ノイズレスへの憧憬), 藤島寛(京都国際現代音楽フォーラム企画委員, 立命館大学大学院応用人間科学研究科)		
セミナー・シンポジウム名	「藝術は誰のものか? 著作権問題を藝術学から考える」	開催日	平成 19 年 6 月 16 日
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	120 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	佐々木健一(藝術学関連学会連合会長), 渡辺裕(日本音楽学会), 木村建哉(日本映像学会), 島本澣(美学会), 塚田健一(東洋音楽学会)		
セミナー・シンポジウム名	「ポピュラーカルチャーおよび表現に関する研究交流推進プロジェクト」 第 1 回研究会	開催日	平成 19 年 7 月 7 日
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	33 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	村田麻里子(京都精華大学人文学部社会メディア学科), ウスビ・サコ(京都精華大学人文学部文化表現学科), 岩本真一(京都精華大学人文学部社会メディア学科), 佐藤守弘(京都精華大学デザイン学部)		
セミナー・シンポジウム名	国際交流基金京都支部 2007 年度第 3 回フェローセミナー「尺八の国際的な広がりとその原点回帰の動き」	開催日	平成 19 年 9 月 15 日
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	20 名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	Kiku Day (デイ・菊壺)(デンマーク/2006 年度基金フェロー)		
セミナー・シンポジウム名	麻田浩展シンポジウム「今, なぜ麻田 浩なのか」	開催日	平成 19 年 9 月 17 日
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	153 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	麻田弦(麻田浩長男), 森本岩雄(京都市立芸術大学名誉教授), 岩城見一(京都国立近代美術館長), 山野英嗣(京都国立近代美術館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	「ドイツ・ロマン主義の<現在> - 美術, 音	開催日	平成 19 年 9 月 21 日

	楽, 思想から - 」		
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	30名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ハンス・ディッケル(エルランゲン=ニュルンベルク大学教授), 神林恒道(立命館大学教授), 藤野一夫(神戸大学教授), 仲間裕子(立命館大学教授)		
セミナー・シンポジウム名	ギャラリー・ラボ 2007 鑑賞空間の合意に向けて「街角のミュージアム アジア, ヨーロッパ, 北米を歩く」	開催日	平成 19年 9月 23日
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	12名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	三木美裕(カナダ国立博物館客員学芸員)		
セミナー・シンポジウム名	細見美術館「琳派展 神坂雪佳」アートキュープレクチャー「神坂雪佳と近代の工芸図案」	開催日	平成 19年 11月 24日
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	53人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	土田真紀(帝塚山大学講師)		
セミナー・シンポジウム名	「ドクメンタ12を振り返って」	開催日	平成 19年 11月 28日
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	64名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ルート・ノアック(ドクメンタ12キュレーター)		
セミナー・シンポジウム名	「鑑賞教育の豊かな実践に向けて - 東アジアからの発信」	開催日	平成 19年 12月 2日
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	30名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	神林恒道(立命館大学大学院教授, 日本美術教育学会会長), 萱のり子(大阪教育大学教授), 梅澤啓一(立正大学教授), 大嶋彰(滋賀大学教授), 新関伸也(滋賀大学教授)		

ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「パルマ派美術研究の現在」	開催日	平成 19年 8月 10日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	53人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	メアリー・ヴァッカーロ(テキサス大学准教授), パベット・ボーン(テキサスクリスト教大学教授), 高梨光正(国立西洋美術館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「ルネサンスのエロティック美術 図像と機能」	開催日	平成 20年 3月 29日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	141人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	渡辺晋輔(国立西洋美術館研究員), ジョナサン・K・ネルソン(シラキューズ大学フィレンツェ校), アウグスト・ジェンティーリ(ヴェネツィア, カ・フォスカリ大学), 高梨光正(国立西洋美術館主任研究員), 池上英洋(恵泉女学園大学), ベット・タルヴァッキア(コネチカット大学), マルツィア・ファイエッティ(ウフィツィ美術館版画素描室長), 細野喜代(慶應義塾大学大学院), 越川倫明(東京芸術大学)		

エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	国立国際美術館開館三十周年記念シンポジウム「未完の過去 この30年の美術」	開催日	平成 19年 11月 3日~4日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	830人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会, 講師等 原 久子(アートプロデューサー・ライター) 後小路雅弘(九州大学大学院人文科学研究院教授), 松井みどり(美術評論家), 南條史生(森美術館長), 岡田温司(美術史家, 京都大学大学院教授), ナウイン・ラワンチャイクン(アーティスト), 松井みどり(美術評論家), 五十嵐太郎(東北大学大学院准教授), 浅田 彰(評論家), 高階秀爾(美術史家, 美術評論家), 石内 都(写真家), 吉岡 洋(京都大学教授), 南條史生(森美術館長), 住友文彦(東京都現代美術館学芸員), 岡田温司(美術史家, 京都大学大学院教授) 岡崎乾二郎(造形作家), 田中 純(東京大学大学院総合文化研究科准教授) ほか		

オ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	モネとその遺産	開催日	平成 19 年 5 月 12 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	110 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	宮崎克己(美術史家), 六人部昭典(実践女子大学), 松岡智子(倉敷芸術科学大学), 天野知香(お茶の水女子大学), 馬淵明子(日本女子大学), 南雄介(国立新美術館主任研究員), 松本陽子(画家), 高階秀爾(大原美術館)		
セミナー・シンポジウム名	アート・ドキュメンテーション学会 2007 年度年次大会	開催日	平成 19 年 6 月 23 日, 24 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	229 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	安斎利洋(システムアーティスト), 前田富士男(慶應義塾大学), 丸川雄三(国立情報学研究所), 金子郁容(慶應義塾大学), 水谷長志(独立行政法人国立美術館)		
セミナー・シンポジウム名	日本色彩学会 第 38 回全国大会	開催日	平成 19 年 5 月 18 日 ~ 20 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	475 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	河本哲三(元ロレアルアートアンドサイエンスファンデーション代表), 名取和幸((財)日本色彩研究所), 鈴木卓治(国立歴史民族博物館), 松田陽子(Colour Institute MeMe/ミーム)		
セミナー・シンポジウム名	日本色彩学会「脳のなかのマチエール」	開催日	平成 19 年 10 月 21 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	90 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	本吉勇(NTT コミュニケーション科学基礎研究所研究主任, 東京工業大学大学院准教授)		

我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

(本館)

東京国立近代美術館・韓国国立現代美術館・シンガポール美術館・国際交流基金の共催で3カ国の国立美術館で開かれた「アジアのキュビズム」展(平成17年8月~平成18年4月)を再編成した展覧会が, パリ日本文化会館(平成19年5月16日~7月7日)で開催され, 支援館として展覧会の企画・構成, 作家・作品選定, 展示等を協同して行った。

(工芸館)

大英博物館「わざの美: 伝統工芸の50年」展(主催: 大英博物館, 東京国立近代美術館, 京都国立近代美術館, 日本工芸会, 国際交流基金, 協力: 文化庁, 平成19年7月19日~10月21日)開催にあたり, 日本側主催者代表として連絡・調整と運営を担った。また, 図録作成やデモンストレーション等関連事業開催への協力を行った。工芸館は, 出品作品112点のうち半数を貸し出した。

(フィルムセンター)

ルーヴル美術館講堂(フランス・パリ, F I A F 寄附機関)との共同主催により, 在仏日本人作曲家・望月京氏の作曲, アンサンブル・コントラクションの演奏を付した「無声映画をコンサートで『瀧の白糸』上映会」開催した(平成19年6月15日~17日)。

シネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリール)において, 「アニメの源へ 日本のアニメーション映画(1924~1952)」がフィルムセンターとの共同主催により開催(平成20年2月27日~4月5日)され, フィルムセンター研究員が番組編成と作品選定を行ったほか, 解説等の寄稿, 講演, 作品紹介等を行った。

無声映画期の日本の女優を扱った「スチル写真でみる日本の映画女優」展の一部についてドイツのエアランゲン無声映画音楽祭への出品を要請され, フィルムセンターとの共催企画として現地での展覧会の開催につながった(平成20年1月24日~2月29日)。

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア 東京国立近代美術館

工芸館では、漆芸作品の調査研究を MOA 美術館や目白漆芸文化財研究所と、伝統工芸作品の調査研究を大英博物館、セインズベリー日本藝術研究所と行った。

フィルムセンターでは、フィルムアルヒーフ・オーストリアとの契約に基づき、『キリストの一生』（1923年）最長版復元への調査協力とフィルム貸与を行ったほか、京都府京都文化博物館によりデジタル復元された『祇園小唄 絵日傘 狸大尽』（1930年）『槍供養』（1927年）について、プリント作成に関する情報交換を行った。

イ 京都国立近代美術館

写真の保存整理の専門家である客員研究員を中心に、写真作品保存・整理・公開システムの再構築を行った。

ウ 国立西洋美術館

ゲティ美術館の国際プロジェクトである国際会議「博物館の地震対策」の一環として、トルコのイスタンブールのキラク財団・ペラ博物館において開催されたシンポジウムで「ロダン作品《地獄の門》の免震化」と題して講演を行った。

10月にはテート（ロンドン）の招待により、テート・モダンで開催されたワークショップ（国際シンポジウム）「近代彫刻におけるレプリカとその意味」の討論に参加した。

(4) 所蔵作品の貸与等

作品の貸与

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館(本館)	77	366	156	512
東京国立近代美術館(工芸館)	28	160	23	53
京都国立近代美術館	70	343	66	120
国立西洋美術館	8	11	59	213
国立国際美術館	25	104	12	24
計	208	984	316	922

東京国立近代美術館本館では、写真閲覧制度（プリントスタディ）を行った。利用件数18件、閲覧者数153人、閲覧作品数575点と平成18年度（利用件数10件、閲覧者数27人、閲覧作品点数482点）を大きく上回った。また、工芸館では、毎年文化庁企画巡回展「わざと美」展をはじめ、練馬区立美術館や茨城県陶芸美術館等美術館の企画展、NHKプロモーション企画巡回展等への特別の貸出協力があった。

京都国立近代美術館では、作品の保存に支障がない範囲で可能な限り貸出依頼に対応し、地方美術館の活動や学芸職員の研鑽に協力した。

国立西洋美術館では、国立美術館巡回展（姫路市立美術館、松本市美術館）にはクロード・ロラン、ドラクロワ、ゴッホ、ロダン、マイヨール等の重要作品を含む絵画21点・彫刻10点・版画62点を出品した。

映画フィルム等の貸与

種別	貸出	特別映写観覧	複製利用
----	----	--------	------

	件数	点数	件数	点数	件数	点数
映画フィルム	64	276	110	262	31	64

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画資料	3	21	50	188

海外への貸与では、シネマテーク・フランセーズ、フィンランド・フィルム・アーカイブ、ソウル忠武路国際映画祭、北アメリカ及びイギリスを巡回した内田吐夢監督回顧展、国内への貸与では、プラネット映画資料図書館（大阪）、山形国際ドキュメンタリー映画祭、高知県立美術館などを巡回した川島雄三監督回顧展等、各機関や映画祭、巡回展等に対し多数の映画フィルムを貸与した。

平成19年度の貸与本数は昨年度より一段と増加した。大規模な上映企画への貢献、巡回展への協力、国内における所蔵作品の継続的な上映拠点の形成への寄与は、平成19年度の大きな特徴となった。

（5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

「平成19年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を実施した（参加者数：139名、実施期間：平成19年8月6日～8月8日、会場：東京国立近代美術館及び国立新美術館）。平成19年度は、全都道府県及び政令指定都市から参加者があった。また、指導者研修の報告書を作成し、関係者に配布するとともにホームページへの掲載を行い、研修成果の普及を図った。

先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

ア 国立美術館

小・中学校の授業で利用できる美術作品鑑賞補助教材（解説シート、作品画像（DVD）、ティーチャーズガイドなど）のパイロット版を制作し、関係者に配布した。また、東京国立近代美術館（本館・工芸館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館の所蔵作品65点による鑑賞教材（アートカード）を制作した。

イ 東京国立近代美術館

本館では、科学研究費補助金による大学等との共同研究で鑑賞プログラムを実施し、その記録や検証を記載した科研費報告書を「指導者研修」で配布することにより、先駆的なプログラムを全国に発信した。

また、東京都や荒川区、足立区など公立小・中学校の教員研修を実施、所蔵作品展や「東山魁夷」展の小・中学生向けセルフガイドを制作し、鑑賞授業に活用できるよう学校に配布した。

工芸館では、夏季の所蔵作品展に際して、小・中学生を対象とした鑑賞補助教材「6つの謎」「報告カード」及び教育者向け指導案を作成し、小・中学校への送付並びに館内での配布を行った。学校・クラス単位での利用希望も多く、九段中等教育学校の夏休み課題（3年生対象）として活用された。また、小学4年生～中学3年生を対象として布染技法による絵付けを行い（講師：陶芸家・上瀧勝治氏）、装飾の効果とそれを実現するための素材・技法の特性について学習した。実技の前後に作品鑑賞も実施し、各段階における子どもたちの関心や理解の様子を記録、検証した。

ウ 京都国立近代美術館

多様な鑑賞手法を研究するため「ギャラリー・ラボ2007」を開催した。期間を限り、コレクション・ギャラリーで「鑑賞のための会話を積極的に認める」、「子供連れの成人を無料にする」という設定を行い、館外のグループ、研究者たちが発案したプランにより様々な鑑賞実験と調査を実施し、大きな成果をあげた。また、美術家による、託児機能を備えた作品「プレイルーム」を設置、美術館に幼児を受け入れるための実験的な試みを行った。

エ 国立西洋美術館

所蔵作品展の鑑賞補助教材「びじゅつーる」を改善し、6才～10才の子どもと同伴の大人に貸し出した。

オ 国立国際美術館

「先生のための国立国際美術館活用ガイド」を作成した。

(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名	インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	18	19
京都国立近代美術館	0	-
国立西洋美術館	7	-
国立国際美術館	8	-
国立新美術館	8	-
計	41	19

(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築

企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名	共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	15	30
京都国立近代美術館	1	6
国立西洋美術館	6	3
国立国際美術館	3	8
国立新美術館	6	8
計	31	55

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

企画展を全国の美術館と共同主催するケースが増えており、人的ネットワークの形成に寄与した。また、企画・立案、調査研究の連携に当たっては主導的役割を果たす局面が増えていることが特筆される。

(工芸館)

「岡部嶺男展」、「カルロ・ザウリ展（平成19年度に京都国立近代美術館で開催、平成20年度に東京国立近代美術館で開催）」及び東京国立近代美術館工芸館巡回展において、各美術館、博物館と共同研究を行い、特に「カルロ・ザウリ展」では京都国立近代美術館と、工芸館巡回展では各開催館と共同主催で展覧会を開催した。

(フィルムセンター)

ポーランド短篇映画選，ウズベキスタン映画祭，スウェーデン・ドキュメンタリー新
作選，山本薩夫監督特集等の上映会において，共同開催団体と連携し作品選定等を行った。

(イ) 京都国立近代美術館

千葉市美術館と共同共催による両館のコレクションを持ち寄り研究した展覧会「文承
根+八木正 1973-83の仕事」を開催した。両館の研究者の集中的な研究と共同
作業により開催されたもので，連携・人的ネットワークの構築に繋がった。

(ウ) 国立西洋美術館

チューリヒ，パルマ，オスロ，フィレンツェなどの美術館との連携で4つの展覧会を
開催し，平成19年度も国際的に広がりのある人的ネットワークを構築することができ
た。また，国立美術館巡回展の実施に当たっては姫路市立美術館及び松本市美術館と共
同で図録編集，展示構成等を行った。

(エ) 国立国際美術館

「ベルギー王立美術館展」，「ロシア皇帝の至宝展」及び「エミリー・ウングワレー
展」では，国内の美術館のほか，海外のベルギー王立美術館，クレムリン博物館，オー
ストラリア国立博物館の学芸員との長期にわたる共同研究を続け，作品のみならず，そ
の国の時代背景，作家に関する理解を深めたとともに，人的ネットワークが形成され，
展覧会及び図録の充実に繋がった。

(オ) 国立新美術館

ポンピドー・センター，オルセー美術館，ロサンゼルス現代美術館，アムステルダム国
立美術館等との連携で展覧会を開催し，海外の美術館との人的ネットワークを構築でき
た。特に「スキン+ボーンズ-1980年代以降の建築とファッション」展では新たな表
現分野，方法の研究に繋がった。また，国内においては宮城県美術館・広島県立美術館・
富山県立近代美術館との連携協力により「日展100年」展を開催するなど，人的交流，
共同企画を推進した。

キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館	2
国立国際美術館	2
国立新美術館	1
計	5

(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員としての活動

国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)との共同主催により，平成19年4月7日よ
り12日まで，第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007を開催し，海外か
ら156名(36カ国，88機関)，国内から88名(招待者68名，一般参加20名)，
計244名の参加者を得た。

4月7日～8日は，「短命映画規格の保存学的研究」と題したシンポジウムを行い，10
年以上の歴史を持つ映画史において，創意・開発されながらも短命に終わってしまったさ

さまざまなフォーマットについて、アーカイブの立場からその保存・復元・カタログニングなどの問題について、日本人研究者を含む専門家たちによる講演、実演、ディスカッションを行った。

4月9日の午前は、「セカンド・センチュリー・フォーラム」と称するシンポジウムを行い、「フェアユースとアクセスに関するF I A F宣言に向けて」というテーマで、アジアにおける映画著作権についての講演、およびヨーロッパにおける業界団体とシネマテーク協会との合意モデルの紹介、また次回のパリ会議で本格的な討議を行うF I A F宣言に関する紹介が行われた。

午後は、F I A F各委員会の主催によるワークショップにより、フィルム・アーカイブの運営、ウェブを利用したカタログニングの方法、映画保存におけるデジタル技術の新たな活用などについて、さまざまな講演が行われた。

4月10日は、海外からの参加者による富士フィルム神奈川工場足柄サイトの見学とフィルムセンター相模原分館訪問を実施し、分館では復元作品の上映会も開催した。4月11日～4月12日は、F I A F加盟機関のみによる総会により、活動報告、会長など役員を選出などを行った。

このほか、4月7日には、「テクニカル・デブリーフィング」と題し、フィルムとデジタルの最新技術に関する講演と質疑応答を実施。4月8日には、朝日新聞社との共催により、有楽町朝日ホールにおいて、映画保存に関する座談会に引き続き、『狂った一頁』（1926年、衣笠貞之助監督）復元版のピアノ伴奏上映を行った。また、4月7日、9日、10日、11日には、フィルムセンターおよび国内の同種機関や大学、映画保存団体による最新の復元成果を、各団体のアーキビストによる紹介とともに発表する上映会を催した。4月7日、9日には、上映会に引き続き、シンポジウムのテーマに関連して、立体（3D）映画についての講演と上映を行った。

その他、F I A Fとチネテカ・ディ・ボローニャ、イマジネ・リトロヴァータの主催する映画フィルムの復元に関するサマースクールへ研究員を派遣し、復元における技術や倫理上の課題について最新の知見を得るとともに、現像所における実作業を体験し、その成果を「N F C ニュースレター」において報告した。

日本映画情報システムの運営

「日本映画情報システム」については、運営管理等に関する会議への出席並びに資料の提供を行うなどの協力を行い、平成19年度に戦後に公開された劇映画（映倫審査作品）16,876本の入力完了し、公開された。これにより公開レコード数は約20,000件となった。

所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成19年度中に日本劇映画のレコード128件を新たに公開した。

映画関係団体等との連携

ア 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力したほか、映画関係団体や大学等との連携協力を推進するための会議等を以下のとおり主催した。

（ア）「日本映画の海外普及に関する関係諸団体との会合」（平成20年3月27日）

（イ）「全国コミュニティシネマ会議2007」

実施期間：平成19年8月31日（金）、9月1日（土）（2日間）

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター，コミュニティシネマ支援センター，財団法人国際文化交流推進協会（エース・ジャパン）

内容：映画祭関係者や公共施設の上映担当者，自主上映団体，ミニシアターの関係者を集め研究討議，情報交換を行う「全国コミュニティシネマ会議」を，初めてフィルムセンターで開催した。「批評の復権」や「上映システムの再構築」などをテーマに，「多様な作品と多様な観客が作り出す豊かな映画環境」を構築するための討議が行われた。参加者は同会議において最も多い286人を記録した。

イ 大学・専門学校等外部機関との連携による，フィルム上映を伴う映画史・映画芸術講座等を開催するとともに，映画の保存等に関する専門家養成講座の開催について検討を進めた。

（ア）F I A F 会議において，映画保存復元等に関する上映を伴う講座を開催した。

（イ）F I A F が主催する映画フィルムの保存に関するサマースクールへ映画室研究員を派遣し，N F C ニュースレターにおいて報告を行った。

ウ 文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力したほか，文化庁との共同事業により「近代歴史資料緊急調査（映像フィルム・映画関係分野）」を実施し，昭和30年頃までに製作された映画フィルムおよび関連資料の網羅的な所在調査を実施し，今後の収集・保存にとって有効な情報を得ることができた。

フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

東京国立近代美術館フィルムセンターでは，より機動的かつ柔軟な運営を行うため，国立美術館内における独立した一館となるべく，その機能拡充について内部検討会等において検討を行い，その内容を基に関係資料の整備を行った。

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務の効率化のための取り組み

(1) 各美術館の共通的な事務の一元化

国立美術館は、平成13年4月の独立行政法人発足以来、すでに6年が経過し、文部科学省独立行政法人評価委員会による、第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価において、法人として一体的な運営を一層促進するよう求められていること、また、近時の独立行政法人見直しや、民間競争入札の導入など、国立美術館を取り巻く状況は極めて厳しいものとなっている。

このような状況を踏まえ、法人としての一体的な運営を一層促進するため、本部に事務局長を置き、本部事務局の企画立案機能の強化を図るとともに、事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的に業務を遂行しうる体制を整備した。

(2) 使用資源の削減

省エネルギー（5年計画で1年に1.03%の減少）

使用量，使用料金の削減割合（対前年度比）

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	96.0%	93.0%	94.0%	99.6%	97.7%	98.9%
東京国立近代美術館工芸館	94.2%	-	94.2%	93.5%	-	93.5%
東京国立近代美術館フィルムセンター	118.8%	-	118.8%	111.5%	-	111.5%
京都国立近代美術館	92.0%	79.7%	85.3%	93.8%	87.2%	92.2%
国立西洋美術館	88.0%	94.7%	92.0%	93.9%	99.6%	95.8%
国立国際美術館	113.7%	-	113.7%	100.2%	-	100.2%
国立新美術館	-	-	-	-	-	-
法人全体	99.4%	92.6%	96.0%	98.9%	97.7%	98.6%

- ・ 東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。
- ・ 使用量の合計は、電気1kwhあたり3.6MJ、ガス1m³あたり44.8MJ（資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。）に換算して合計したものである。

特記事項（増減の理由等）

省エネルギーについては、照明器具の省エネルギー化、空調設定温度の変更（美術作品のない区画について、夏季28℃、冬季20℃）、自動運転に対して天候等の状況に応じた手動運転の実施、使用していない設備機器類の停止及び職員に対する啓発により、使用エネルギーの削減に努めた。しかし、電気は東京国立近代美術館フィルムセンターでは上映回数が増加したこと、国立国際美術館では夏季の観客数増加に伴い空調設備稼働率が増加したことによりそれぞれ使用量および使用料金が増加した。なお、国立新美術館については、通年での開館が平成19年度からであるため、対前年度比削減割合を記載していない。

廃棄物減量化（排出量を5年期間中5%減少）

排出量，廃棄料金の削減割合（対前年度比）

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物

東京国立近代美術館本館	115.9%	121.5%	117.4%	115.9%	121.5%
東京国立近代美術館工芸館	77.3%	133.8%	88.0%	77.3%	133.9%
東京国立近代美術館フィルムセンター	98.5%	30.9%	44.9%	98.5%	33.7%
京都国立近代美術館	87.4%	-	87.4%	-	-
国立西洋美術館	121.3%	98.3%	113.6%	64.4%	59.0%
国立国際美術館	94.1%	-	94.1%	100.0%	-
国立新美術館	-	-	-	-	-
法人全体	100.5%	65.0%	89.8%	91.0%	69.2%

- ・ 京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しており、廃棄料金を算出できない。

特記事項（増減の理由等）

館内LANによる通知文書の発信及びサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化に取り組むとともに、古紙の分別回収を進めることにより、廃棄物の削減を図った。国立西洋美術館では、近隣の東京国立博物館、東京藝術大学との共同による廃棄物処理業務委託により、廃棄料金の削減を図った。しかし、一般廃棄物は東京国立近代美術館本館の来館者の排出による自然増ならびに国立西洋美術館の入館者数増により、産業廃棄物は東京国立近代美術館本館ならびに工芸館の倉庫整理によりそれぞれ排出量および廃棄料金が増加した。なお、国立新美術館については、通年での開館が平成19年度からであるため、対前年度比削減割合を記載していない。

リサイクルの推進

古紙の再利用、廃棄物の分別、OA機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を引き続き行い、更なるリサイクルの推進に努めた

（3）美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数	貸出可能日数	貸出利用率
東京国立近代美術館本館（講堂）	24日	336日	7.1%
東近美フィルムセンター（小ホール）	13日	179日	7.3%
東近美フィルムセンター（会議室）	31日	256日	12.1%
京都国立近代美術館（講堂）	16日	216日	7.4%
国立西洋美術館（講堂）	23日	296日	7.8%
国立西洋美術館（会議室）	10日	355日	2.8%
国立国際美術館（講堂）	53日	280日	18.9%
国立国際美術館（会議室）	13日	218日	6.0%
国立新美術館（講堂）	65日	173日	37.6%
国立新美術館（研修室A）	55日	174日	31.6%
国立新美術館（研修室B）	50日	179日	27.9%
国立新美術館（研修室C）	40日	188日	21.3%
計	393日	2,850日	13.8%

- ・ 貸出可能日数は、年末年始休館及び館事業により使用した日数を除いたもの。

特記事項

講堂及び会議室について、館の事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。講堂については、利用促進を図るため、館のホームページに利用案内を掲載するとともに、各種団体

を訪問して講堂の設備や貸出料金等の説明を行うなどのきめ細やかな対応をした。また、フィルムセンターの小ホールについても、可能な限り外部への貸出を行った。

その他、展示室及びロビーにおいて、コンサート等イベントの開催や一般企業のプレス発表を行った。

(4) 民間委託の推進

一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次の外部委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務，(イ) 設備管理業務，(ウ) 清掃業務，(エ) 保安警備業務，(オ) 機械警備業務，(カ) 収入金等集配業務，(キ) レストラン運営業務，(ク) アートライブラリ運営業務，(ケ) ミュージアムショップ運営業務，(コ) 美術情報システム等運営支援業務，(サ) ホームページサーバ運用管理業務，(シ) 電話交換業務

東京国立近代美術館は、個別に委託していた本館・工芸館とフィルムセンターの会場管理業務について、平成19年度から一本化したことにより、管理業務の軽減を図った。

国立西洋美術館は、電話交換業務の委託について平成19年度から実施した。

国立新美術館は、施設管理関係業務（設備管理，保安警備，会場管理業務）を包括的に委託することにより、施設・警備等に係る連絡調整の指示系統の一元化を行い、業務の効率化とともに管理事務の軽減を図った。公募展関係については、バックヤードの管理業務をサポートする業者に対し、トラックの入出管理・展示作業・備品管理等の業務委託を実施した。

なお、官民競争入札の導入に係る検討・取組状況については、「独立行政法人整理合理化計画（平成19年12月24日、閣議決定）」、(別表)「各独立行政法人について講ずべき措置」中の「【民間競争入札の適用】東京国立近代美術館等の管理・運営業務（展示事業の企画等を除く。）について、民間競争入札を実施する。」のとおり、市場化テストの導入の検討を開始した。

広報・普及業務の民間委託の推進

(ア) 情報案内業務，(イ) 広報物等発送業務，(ウ) 交通広告等掲載，(エ) ホームページ改訂・更新業務，(オ) インターネット検索サイト，(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務，(キ) 雑誌「ぴあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託，(ク) 講堂音響設備オペレーティング委託を行った。

(5) 競争入札の推進

一般競争入札の実績

別紙1「契約件数及び契約金額の状況（平成19年度）」，別紙2「随意契約見直し契約に関する進捗状況」ならびに別紙3「公益調達適正化（財計第2017号）等に即した実施状況」を参照。

特記事項

平成19年度から随意契約基準額を国の基準と同額に引き下げることにより、一般競争入札の推進を図った。

国立西洋美術館は、近隣の東京国立博物館・東京藝術大学との連携によるコピー用紙、トイレットペーパーおよび廃棄物処理業務委託の共同契約を実施した。

2 事業評価及び職員の研修等

外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回（平成19年6月27日及び平成20年3月12日）開催し、平成18年度事業実績について説明聴取の上、意見交換を行った。また、平成19年度事業の実施状況及び20年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回（平成19年4月24日、5月30日及び6月20日）開催し、平成18年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を2回（平成19年7月13日及び平成20年3月7日）開催し、平成18年度事業実績、平成19年度事業の実施状況及び平成20年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、評議員会（映画部会）を2回（平成19年7月6日及び平成20年2月28日）開催し、平成18年度事業実績、平成19年度事業経過報告及び平成20年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成19年7月13日）開催し、平成18年度事業実績、平成19年度年度計画及び予算について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成19年7月23日）開催し、平成18年度事業報告及び平成19年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成20年3月10日）開催し、平成18年度事業の外部評価結果、平成19年度事業の実施状況及び平成20年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を2回（平成19年7月20日及び平成20年2月28日）開催し、平成19年度事業の実施状況及び平成20年度年度計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格な書類管理の徹底について注意喚起を行った。

また、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムへの画像掲載許諾のため、著作権者情報の集積を進めるに当たっては、当該個人情報を記録した電子媒体及び紙媒体を、施錠保管庫に納めるなど情報管理徹底のための措置を講じた。

ウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

情報システムの管理に当たっては、システム担当の新人職員に情報の取り扱いについての研修を実施するとともに、職員に対しては、私物のパソコン等を館内に持ち込ませない、職場のパソコン

を自宅に持ち帰させない，自分用のパソコンを他人に使用させない，パスワードを他人に教えない（知られないようにする），不審なメールやファイル等は開かないなどの注意喚起を行った。

4 人件費の抑制，給与体系の見直し

人件費決算

決算額 1,023,416 千円（対平成 18 年度比較 100.7%）

- ・人件費は常勤職員を対象とし，退職金，福利厚生費を含まない。
- ・決算額は，新俸給表への切替及び地域手当新設による増減の影響を含む。

特記事項

人事院勧告の反映による地域手当の増額の要素が発生したが，人事異動に伴う採用者の若年化など人件費の削減を図り，平成 18 年度に比してほぼ同額に抑制することができた。

給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して，平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8% 引下げるとともに，級の構成の見直し，きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか，調整手当を廃止し，地域手当を新設するなど，国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また，国立美術館の職員が行う職務は，国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし，給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に，これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成 18 年度）」平成 19 年 8 月 3 日総務省公表資料を参照。）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

< 国との比較 >

項目	国	国立美術館
平均年齢	40.4 歳	39.5 歳
学歴（大学卒の割合）	47.3 %	70.4 %
調整手当支給率 1	40.2 %	100 %

1 1 級地，2 級地及び 4 級地の支給地の割合

< 他の独立行政法人との比較 > 18 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	7,326 千円	6,199 千円
平均年齢	43.4 歳	39.5 歳
ラスパイレス指数 2	107.4	100.7

2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

< 国との比較 >

項目	国	国立美術館
平均年齢	44.2 歳	43.4 歳
学歴（大学卒の割合）	96.8 %	98.1 %
調整手当支給率 3	40.2 %	100 %

3 1 級地，2 級地及び 4 級地の支給地の割合

< 他の独立行政法人との比較 > 18 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9,099 千円	8,353 千円
平均年齢	44.7 歳	43.4 歳
ラスパイレス指数 4	102.4	97.1

4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

項 目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	18,859千円	20,000千円
理事	15,957千円	18,997千円

平成19年度の役職員の報酬・給与等について

別紙4「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 予算（単位：千円）

区 分	計 画 額	実 績 額	増 減 額
収入			
運営費交付金	6,041,513	6,041,513	0
展示事業等収入（注1）	965,334	1,503,746	538,412
寄附金収入	0	10,748	10,748
施設整備費補助金（注2）	7,075,399	6,392,929	682,470
計	14,082,246	13,948,936	133,310
支出			
運営事業費	7,006,847	7,023,940	17,093
管理部門経費	2,583,887	2,400,741	183,146
うち人件費（注3）	498,364	441,026	57,338
うち一般管理費（注4）（注5）	2,085,523	1,959,715	125,808
事業部門経費	4,422,960	4,623,199	200,239
うち人件費（注3）	832,618	825,792	6,826
うち展覧事業費（注4）	2,665,299	2,905,999	240,700
うち調査研究事業費（注4）	216,830	233,354	16,524
うち教育普及事業費（注4）	708,213	658,054	50,159
施設整備費補助金（注2）	7,075,399	6,392,929	682,470
計	14,082,246	13,416,869	665,377
収支差引	0	532,067	532,067

主な増減理由

（注1）入場料収入等の増加による。

（注2）工事未完により次期へ繰越による。

（注3）予算計画時に当中期計画期間の退職手当支出相当額を計上したことによる。

（注4）支出経費の見直しによる。

（注5）業務の効率化による。

特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では、人件費が予算に比べて64,164千円の支出減となった。これは当中期計画期間の退職者予定者の退職手当支出相当額を翌年度以降に繰り越したためである。物件費は、国立新美術館の土地借料の増加等により、予算に比べ81,257千円の支出増となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったこと、また、国立新美術館の開館による入場料収入が収入の増加に繋がった。その他事業収入では、国立新美術館の公募展事業収入が収入の増加に繋がった。これらの理由により、展示事業等収入は予算に比べて538,412千円の収入増となった。

施設整備費補助金は工事が未完となった東京国立近代美術館熱源機器設備更新工事ならびに国立西洋美術館新館空気調和設備改修工事について、翌事業年度に繰越をしたため682,470千円の収入の減少ならびに支出の減少となった。

寄附金については、10件、15,211千円を獲得した。そのうち14,969千円を当年度の収益とし、残りの242千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

2 収支計画（単位：千円）

区 分	計画額	実績額	増 減額
費用の部			
経常経費	5,767,789	6,093,424	325,635
管理部門経費	2,393,825	2,365,844	27,981
うち人件費	498,364	441,025	57,339
うち一般管理費（注1）	1,895,461	1,924,819	29,358
事業部門経費	3,262,418	3,571,093	308,675
うち人件費	832,618	825,791	6,827
うち展覧事業費（注1）	1,532,563	1,894,944	362,381
うち調査研究事業費（注2）	211,652	201,542	10,110
うち教育普及事業費（注2）	685,585	648,816	36,769
減価償却費	111,546	156,487	44,941
収益の部			
運営費交付金（注2）	6,041,513	4,802,277	1,239,236
展示事業等の収入（注3）	965,334	1,530,753	565,419
資産見返運営費交付金戻入	35,295	140,145	104,850
資産見返寄附金戻入	-	824	824
資産見返物品受贈額戻入	76,466	13,536	62,930
経常利益		6,487,535	
臨時損失		3,876	
臨時利益		7,590	
当期純利益		397,825	
当期総利益		397,825	

主な増減理由

- （注1）固定資産の取得が見込より少なく、費用への計上が多かったことによる。
- （注2）固定資産の取得が見込より多く、費用への計上が少なかったことによる。
- （注3）入場料収入等の増加による。

3 資金計画（単位：千円）

区分	計画額	実績額	増減額
資金支出	14,082,246	13,573,786	508,460
業務活動による支出（注1）	5,654,107	7,219,072	1,564,965
投資活動による支出（注1）（注3）	8,428,139	6,354,714	2,073,425
資金収入	14,082,246	13,929,176	153,070
業務活動による収入	7,006,847	7,629,176	622,329
運営費交付金による収入	6,041,513	6,041,513	-
展示事業等による収入（注2）	965,334	1,587,663	622,329
投資活動による収入	7,075,399	6,300,000	775,399
施設整備補助金による収入（注3）	7,075,399	6,300,000	775,399
資金増加額		355,390	
資金期首残高		1,409,291	
資金期末残高		1,764,681	

主な増減理由

（注1）活動内容の見直しによる。

（注2）入場料収入等の増加による。

（注3）工事の未完による。

4 貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
流動資産	1,910,419	流動負債	1,351,051
固定資産		固定負債	1,192,210
1．有形固定資産	126,999,589		
2．無形固定資産	36,659	負債合計	2,543,261
固定資産合計	127,036,248		
		純資産の部	
		資本金	81,019,148
		資本剰余金	44,327,001
		利益剰余金	1,057,256
		純資産合計	126,403,406
資産の部合計	128,946,667	負債及び純資産の部合計	128,946,667

5 短期借入金

実績なし

6 重要な財産の処分等

実績なし

7 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額(円)
当期末処分利益	397,825,051
当期総利益	397,825,051
処分計画	
積立金(通則法第44条第1項)	4,059,661
独立行政法人通則法第44項第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	
美術作品購入・修理積立金	393,765,390

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

(3) 目的積立金の使用状況

実績なし

(4) 積立金(通則法第44条第1項)の状況(単位:円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	0	277,898,619	0	277,898,619
前中期目標期間 繰越積立金	381,532,745	0	0	381,532,745

通則法44条第3項の目的積立金の申請を行わなかった理由として、「独立行政法人の経営努力認定について(平成18年7月21日(平成19年7月4日改訂)総務省行政管理局)」の(3)「独立行政法人の経営努力認定の基準」, 「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績額を上回ること。」の基準を満たさなかったため。

8 人事に関する計画

職種別人員の増減状況(過去5年分)

(単位:人)

職種	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
定年制研究系職員	58	60	60	61	61
定年制事務系職員	64	68	70	70	70

「公務員の給与改定に関する取扱について(平成18年10月17日閣議決定)」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・人事院主催「第86回関東地区中堅係員研修」(1名)

- ・ 人事院主催「第 38 回関東地区係長研修」(1 名)
 - ・ 人事院主催「人事院勧告に関する説明会」(1 名)
 - ・ 会計検査院主催「第 26 回各政府関係機関等内部監査業務講習会」(1 名)
 - ・ 経済産業省主催「平成 19 年度後期 C I O / C T O 研修」(1 名)
 - ・ 独立行政法人国立文化財機構主催「個人情報保護講演会」(1 名)
 - ・ 財団法人文化財虫害研究所主催「第 29 回文化財(書籍・古文書等を含む)の虫菌害保存対策研修会」(1 名)
 - ・ 財団法人文化財虫害研究所主催「第 27 回文化財防虫防菌処理実務講習会」(1 名)
 - ・ 平成 19 年度国立美術館新任職員オリエンテーション(10 名)
 - ・ 文部科学省在外研究員として海外へ派遣 (1 名)
 - ・ 放送大学受講(1 名)
- イ 京都国立近代美術館
- ・ 人事院主催「近畿地区中堅係員研修」(1 名)
 - ・ 人事院主催「近畿地区課長研修」(1 名)
 - ・ 人事院主催「人事院勧告に関する説明会」(1 名)
 - ・ 人事院主催「改正給与法説明会」(1 名)
 - ・ 京都地方法務局主催「京都地方法務局管内行政庁訟務事務担当者会議」(1 名)
 - ・ 平成 19 年度国立美術館新任職員オリエンテーション(3 名)
- ウ 国立西洋美術館
- ・ 人事院主催「平成 19 年度関東地区新採用職員研修」(1 名)
 - ・ 人事院主催「第 87 回関東地区 J S T 基本コース(仕事と人とマネジメント研修指導者養成課程)」(1 名)
 - ・ 文部科学省主催「科学研究費補助金公募要領等説明会」(1 名)
 - ・ 文部科学省主催「科学研究費補助金についての説明会」(1 名)
 - ・ 文部科学省主催「科学研究費補助金に係る不正使用等防止に関する説明会」(1 名)
 - ・ 文化庁主催「平成 19 年度著作権セミナー」(1 名)
 - ・ 東京大学主催「平成 19 年度東京大学係長級研修(初級)」(1 名)
 - ・ ルーヴル美術館主催「ルーヴル美術館サマースクール in J A P A N」(1 名)
 - ・ 財団法人省エネルギーセンター主催「平成 19 年度エネルギー管理員新規講習」(1 名)
 - ・ 平成 19 年度国立美術館新任職員オリエンテーション (5 名)
 - ・ 年末調整事務関連説明会(1 名)
- エ 国立国際美術館
- ・ 人事院主催「平成 19 年度近畿地区メンター養成研修」(1 名)
 - ・ 平成 19 年度国立美術館新任職員オリエンテーション (1 名)
 - ・ 消火, 避難訓練(業者含む。平成 20 年 1 月 21 日)
- オ 国立新美術館
- ・ 文部科学省主催「大学等における省エネルギー対策に関する研修会」(1 名)
 - ・ 文化庁主催「平成 19 年度著作権セミナー」(1 名)
 - ・ 財務省会計センター主催「第 45 回政府関係法人会計事務職員研修」(1 名)
 - ・ 総務省関東管区行政評価局主催「平成 19 年度関東地区行政管理・評価セミナー」(1 名)
 - ・ 環境省総合環境政策局主催「環境配慮契約法基本方針全国説明会」(2 名)
 - ・ 独立行政法人国立公文書館主催「平成 19 年度公文書館等職員研修会」(1 名)
 - ・ 独立行政法人国立文化財機構主催「個人情報保護講演会」(1 名)
 - ・ 国立情報学研究所主催「目録システム講習会」(1 名)

- ・平成19年度国立美術館新任職員オリエンテーション(12名)
- ・消防訓練(部分訓練。平成20年2月12日)

9 施設整備に関する計画

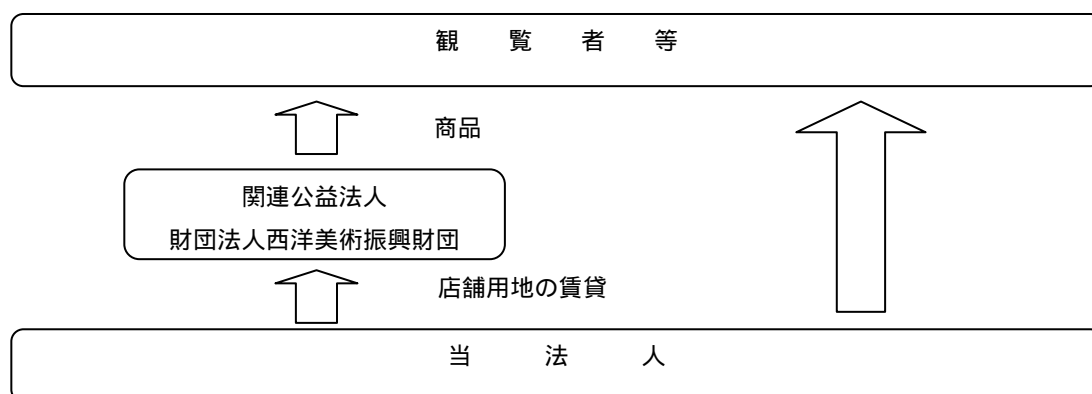
東京国立近代美術館本館熱源機器設備更新工事，京都国立近代美術館美術品収蔵ラック増設工事，国立西洋美術館新館空気調和設備改修その他工事及び国立新美術館土地購入について，平成20年度予算に施設整備費補助金が計上された。

10 関連公益法人

(1) 関連公益法人の概要

名称	業務の概要	独立行政法人との関係
財団法人西洋美術振興財団	西洋美術に関する展覧会・講演会等の開催及びその支援	西洋美術館内において，当法人から店舗用地を賃借している

(2) 関連公益法人の取引の関連図



(3) 関連公益法人の財務状況(単位：千円)

一般正味財産増減の部									
収益	収益の内訳		費用	費用の内訳			当期増減額	一般正味財産期首残高	一般正味財産期末残高
	受取補助金等	その他の収益		事業費	管理費	その他の費用			
A			B				C=A-B	D	E=C+D
35,575	0	35,575	45,680	29,171	15,852	657	10,105	170,367	160,262

指定正味財産増減の部					正味財産期末残高
収益	費用等		当期増減額	指定正味財産期首	
	収益の内訳				

	受取補 助金等	その他 の 収益			残高	残高	
F			G	H=F-G	I	J=H+I	K=E+J
0	0	0	0	0	0	0	160,262

(4) 独立行政法人国立美術館が拠出等をしている関連公益法人の基本財産等の状況

出えん，拠出， 寄付等の金額	会費，負担 金等の金額
-	-

(5) 関連公益法人との取引の状況（単位：千円）

関連公益法人に対 する債権債務の金 額	関連公益法人に対 し行っている債務 保証の金額	関連公益法人の事 業収入の金額	（うち，独立行政法人国 立美術館の発注等に係わ る金額及びその割合）
-	-	35,575	-

契約件数及び契約金額の状況(平成19年度)

(法人名：独立行政法人国立美術館)

[単位:件、円]

合 計	
契約件数	契約金額
300	10,518,478,202

[単位:件、円]

競 争 契 約				うち一般競争入札								うち指名競争入札							
契約 件数	%	契約金額	%	契約金額				契約金額				契約金額							
				契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等	契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等	契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等				
88	29.3	1,372,422,683	13.0	88	29.3	6	82	1,372,422,683	13.0	65,203,950	1,307,218,733	0	0.0			0	0.0		

[単位:件、円]

随 意 契 約				うち同一所管公益法人等								うち同一所管公益法人等以外の法人等							
契約 件数	%	契約金額	%	契約金額				契約金額				契約金額							
				契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等	契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等	契約 件数	%	公共工 事等	物品役 務等				
212	70.7	9,146,055,519	87.0	4	1.3		4	7,035,097,806	66.9		7,035,097,806	208	69.3	1	207	2,110,957,713	20.1	4,410,000	2,106,547,713

(注1) 上記の表は、平成19年度に締結した支出原因契約(予定価格が少額である場合(予算決算及び会計令(昭和22年勅令第165号)第99条第二号、第三号、第四号又は第七号の金額を超えないもの)を除く。)のとりまとめである。

(注2) 「公共工事等」とは、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律(平成12年法律第127号)第2条に規定する公共工事並びに当該公共工事に係る調査及び設計業務等をいう。「物品役務等」とは、(注1)の契約から「公共工事等」にかかる契約を除いたものである。

(注3) 不落・不調随意契約であったものについては、随意契約に分類している。

随意契約見直し計画に関する進捗状況

(法人名：独立行政法人国立美術館)

[単位：件、円、割合(%)]

区分		対計画比較増 減						
		契約総数 (N=G-A)	事務・事業 の廃止 (O=H-B)	競争入札 に移行 (P=I-C)	随意契約		割合 (S=L-D)	割合 (T=M-F)
					企画競争・公 募を実施 (Q=J-D)	随意契約に よらざるを得 ないもの (R=K-E)		
同一所管公益法人等	件数	2	0	(1)	0	3	0	3
	金額	6,420,624,223	0	(3,017,000)	0	6,423,641,223	0	6,423,641,223
同一所管公益法人等 以外の法人等	件数	(74)	0	(83)	8	1	0	(14)
	金額	309,409,402	0	(323,367,090)	44,722,024	588,054,468	0	588,054,439
合 計	件数	(72)	0	(84)	8	4	0	(10)
	金額	6,730,033,625	0	(326,384,090)	44,722,024	7,011,695,691	0	7,011,695,739

[単位：件、円、割合(%)]

区分		随意契約見直し計画 (見直し後)						平成19年度契約実績							
		契約総数 (A)	事務・事業 の廃止 (H18年度限りの ものを含む) (B)	競争入札 に移行 (C)	随意契約		割合 (D=E/A)	割合 (F=E/D+E)	契約総数 (G)	事務・事業 の廃止 (H18年度限りの ものを記載) (H)	競争入札 に移行 (I)	随意契約		割合 (L=K/G)	割合 (M=K/J+K)
					企画競争・公 募を実施 (D)	随意契約に よらざるを得 ないもの (E)						企画競争・公 募を実施 (J)	随意契約に よらざるを得 ないもの (K)		
同一所管公益法人等	件数	3	1	1	0	1	0	1	5	1		4	1	4	
	金額	616,908,455	2,434,872	3,017,000	0	611,456,583	1	611,456,583	7,037,532,678	2,434,872		7,035,097,806	1	7,035,097,806	
同一所管公益法人等 以外の法人等	件数	383	51	133	7	192	1	219	309	51	50	15	193	1	206
	金額	2,200,467,454	200,387,929	521,898,304	25,051,278	1,453,129,943	1	1,453,130,001	2,509,876,856	200,387,929	198,531,214	69,773,302	2,041,184,411	1	2,041,184,440
合 計	件数	386	52	134	7	193	1	221	314	52	50	15	197	1	210
	金額	2,817,375,909	202,822,801	524,915,304	25,051,278	2,064,586,526	1	2,064,586,608	9,547,409,534	202,822,801	198,531,214	69,773,302	9,076,282,217	1	9,076,282,347

「公共調達適正化について」(財計第2017号) 等に即した実施状況

〔独立行政法人国立美術館〕

1. 公共調達の適正化についての実施状況

(1) 再委託の適正化を図るための措置

・措置済み () ・一部未措置 () ・未措置 ()

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(契約書に再委託禁止の条項を盛り込んでいる。)

(2) 契約に係る情報の公表

・措置済み () ・一部未措置 () ・未措置 ()

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(法人ホームページにて公表)

各施設、各館等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表ページへの直接リンクを行っているか

・措置済み () ・未措置 () ・各施設、各館等での公表はしていない。

(3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

・措置済み () ・未措置(平成21年度予定)

措置済みと回答した場合

・問合せ窓口[担当部署] ()

・URL ()

(4) 内部監査の実施

(イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

・措置済み () ・未措置 ()

(ロ) 監査マニュアル等の整備

・措置済み () ・未措置 ()

(ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

・措置済み () ・未措置(平成21年度予定)

(5) 決裁体制の強化

・措置済み () ・未措置 ()

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(監査担当係を置き、相互牽制を図っている。)

2. 随意契約の適正化の一層の推進についての実施状況

(1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

・措置済み () ・一部未措置 () ・未措置 ()

(2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

・措置済み () ・未措置 ()

役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

平成19年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成19年度においては、平成18年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

役員報酬基準の改定内容

法人の長 特に改定は行わなかった。
 理事 特に改定は行わなかった。
 監事(非常勤) 特に改定は行わなかった。

2 役員報酬等の支給状況

役名	平成19年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)		就任	退任	
法人の長	千円 20,000	千円 12,780	千円 5,686	千円 1,534 (地域手当)		3月31日	*
A理事	千円 18,670	千円 11,856	千円 5,196	千円 1,185 (地域手当) 433 (通勤手当)			
B理事	千円 20,000	千円 12,780	千円 5,686	千円 1,534 (地域手当)			
C理事	千円 18,321	千円 11,856	千円 5,196	千円 1,185 (地域手当) 84 (通勤手当)			
A監事 (非常勤)	千円 204	千円 204	千円	千円 ()	4月1日		
B監事 (非常勤)	千円 204	千円 204	千円	千円 ()	4月1日		

注1:「地域手当」とは、当該地域における民間の賃金水準を基礎とし、当該地域における物価等を考慮して規則に定める地域に在勤する役員に支給されているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「 」、独立行政法人等の退職者「 」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「* 」、該当がない場合は空欄。

3 役員退職手当の支給状況(平成19年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長	千円	年 月			該当者なし	
理事	千円	年 月			該当者なし	
監事 (非常勤)	千円	年 月			該当者なし	

注:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「 」、独立行政法人等の退職者「 」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「* 」、該当がない場合は空欄。

職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

人件費管理の基本方針

人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し、その範囲内で執行した。

職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

(能率、勤務成績が反映される給与の内容)

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与・勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

ウ 平成19年度における給与制度の主な改正点

国家公務員の給与等を考慮して、次の改正を行った。

- ・ 俸給表の改定(若年層に限り増額改定(月額200円～2,100円)、中高年齢層は据置き。)
- ・ 地域手当の引上げ(東京特別区13% 14.5%、大阪市11% 12%)
- ・ 扶養手当の引上げ(配偶者以外の扶養親族に係る支給月額を500円引上げ)
- ・ 管理職手当の改定(定率制から定額制へ。経過措置として、段階的に減額改定。)
- ・ 勤勉手当の成績率の改定(12月期を0.05月分引上げ)

2 職員給与の支給状況

職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成19年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	102人	41.6歳	7,237千円	5,329千円	172千円	1,908千円
事務・技術	45人	38.7歳	6,056千円	4,431千円	185千円	1,625千円
研究職種	53人	43.2歳	8,182千円	6,052千円	162千円	2,130千円
医療職種 (病院医師)	0人					
医療職種 (病院看護師)	0人					
教育職種 (高等専門学校教員)	0人					
技能・労務職種	3人	50.2歳	5,656千円	4,207千円	174千円	1,449千円
指定職種	1人					

在外職員	該当なし	人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

任期付職員		人	歳	千円	千円	千円	千円
		1					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		1					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
指定職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

再任用職員	該当なし	人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
指定職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

非常勤職員		人	歳	千円	千円	千円	千円
		2					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		2					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
指定職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

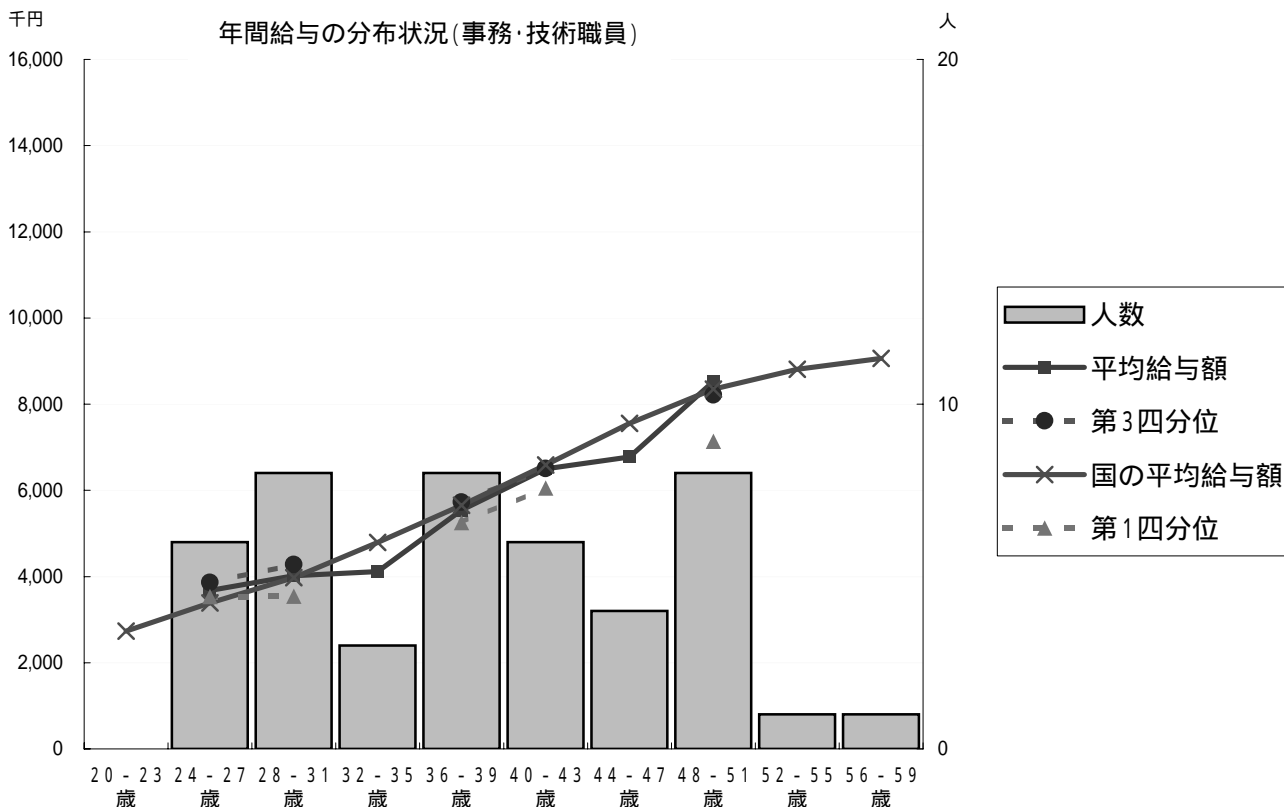
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 指定職種とは、特に指定された高度な業務に従事する職種をいう。

注4: 常勤職員のうち指定職種、任期付職員及び非常勤職員の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

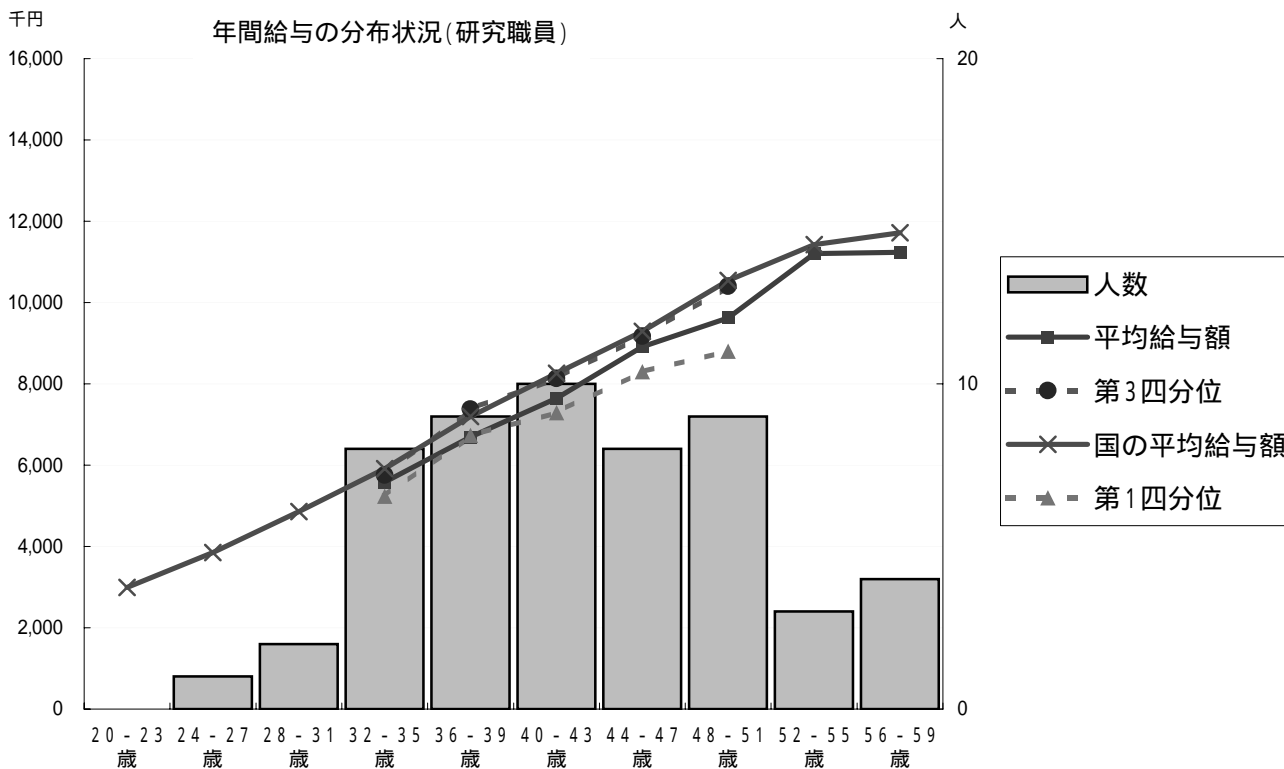
年間給与の分布状況(事務・技術職員 / 研究職員)[任期付職員を除く。以下、 まで同じ。]



注1: の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、 まで同じ。

注2: 年齢32 - 35歳、44 - 47歳、52 - 55歳及び56 - 59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位折れ線については表示していない。

注3: 年齢52 - 55歳及び56歳 - 59歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均給与額を示す点を表示していない。



注1: 年齢24 - 27歳、28 - 31歳、52歳 - 55歳及び56 - 59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位折れ線については表示していない。

注2: 年齢24 - 27歳及び28歳 - 31歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均給与額を示す点を表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
		歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長・部長	3	51.5	-	11,242	-
課長	2		-		-
本部室長	2		-		-
室長	3	49.5	-	7,703	-
本部係長	3	38.5	-	5,852	-
係長	10	44.0	6,056	6,438	6,964
本部係主任	3	35.5	-	4,822	-
係主任	4	36.8	-	5,322	-
本部一般職員	3	28.5	-	4,091	-
一般職員	12	28.9	3,538	3,804	3,898

注1:副館長・部長、室長、本部係長、本部係主任、係主任及び本部一般職員の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位を記載していない。

注2:課長及び本部室長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	0		-		-
課長	9	52.8	10,578	11,256	12,055
本部主任研究員	1		-		-
主任研究員	29	44.4	7,617	8,237	8,804
研究員	15	34.2	4,772	5,344	5,778

注:本部主任研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

職級別在職状況等(平成20年4月1日現在)(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分	計	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長	副館長	部長	部長 課長	課長 室長	室長 係長	係長 係主任	係主任 一般職員	一般職員
人員 (割合)	45 人	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	3 人 (6.7%)	1 人 (2.2%)	1 人 (2.2%)	5 人 (11.1%)	18 人 (40.0%)	8 人 (17.8%)	9 人 (20.0%)
年齢(最高 ~最低)		~ 歳	~ 歳	~ 歳	52~50 歳	~ 歳	~ 歳	51~45 歳	51~36 歳	34~28 歳	29~26 歳
所定内給 与年額(最高 ~最低)		~ 千円	~ 千円	~ 千円	8,181~ 7,863 千円	~ 千円	~ 千円	5,835~ 5,011 千円	5,157~ 3,713 千円	3,554~ 2,694 千円	2,970~ 2,512 千円
年間給与 額(最高~ 最低)		~ 千円	~ 千円	~ 千円	11,439~ 10,976 千円	~ 千円	~ 千円	8,214~ 7,088 千円	7,142~ 5,027 千円	4,771~ 3,702 千円	3,964~ 3,471 千円

注: 6級及び5級については該当者が2人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高~最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

区分	計	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長 課長	課長 主任研究員	主任研究員	研究員	研究員
人員 (割合)	53 人	0 人 (0%)	10 人 (18.9%)	16 人 (30.2%)	13 人 (24.5%)	14 人 (26.4%)	0 人 (0%)
年齢(最高 ~最低)		~ 歳	58~46 歳	56~43 歳	42~37 歳	40~26 歳	~ 歳
所定内給 与年額(最高 ~最低)		~ 千円	8,908~ 6,997 千円	7,745~ 5,837 千円	5,987~ 4,943 千円	4,786~ 2,804 千円	~ 千円
年間給与 額(最高~ 最低)		~ 千円	12,152~ 9,442 千円	10,531 ~7,925 千円	8,132~ 6,729 千円	6,577~ 3,854 千円	~ 千円

賞与(平成19年度)における査定部分の比率(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 57.6	% 59.3	% 58.5
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 42.4	% 40.7	% 41.5
	最高～最低	% 43.1～42.1	% 42.5～39.3	% 42.3～40.6
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 65.9	% 67.4	% 66.7
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 34.1	% 32.6	% 33.3
	最高～最低	% 38.1～30.8	% 36.5～30.3	% 35.3～31.2

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	% ～	% ～	% ～
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 66	% 67.6	% 66.9
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 34	% 32.4	% 33.1
	最高～最低	% 38.1～31.7	% 36.5～30.4	% 35.2～31.5

注: 研究職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員 / 研究職員)

对国家公務員(行政職(一))	99.3
对国家公務員(研究職)	93.9
対他法人(事務・技術職員)	92.2
対他法人(研究職員)	92.7

注: 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

事務・技術職員

項目	内容	
指数の状況	对国家公務員 99.3	
	参考	地域勘案 90.1 学歴勘案 97.9 地域・学歴勘案 90.4
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	非該当	
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 93% (国からの財政支出額 13,116,912千円、支出予算の総額 14,082,246千円:平成19年度予算) 【検証結果】 国からの財政支出の割合が大きいが、平成19年度の給与水準は、对国家公務員の指数を下回っており、適切なものであると認識している。	
	【累積欠損額について】 「累積欠損額0円(平成18年度決算)」 【検証結果】 非該当	
講ずる措置	国家公務員の給与を考慮して、平成18年4月から俸給の水準を全体として平均4.8%引き下げた。また、積極的な人事交流の実施等により、平成19年度においては、对国家公務員の指数が100以下となった。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めたい。	

研究職員

項目	内容	
指数の状況	对国家公務員 93.9	
	参考	地域勘案 92.6 学歴勘案 93.7 地域・学歴勘案 92.6
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	非該当	
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 93% (国からの財政支出額 13,116,912千円、支出予算の総額 14,082,246千円:平成19年度予算) 【検証結果】 国からの財政支出の割合が大きいが、平成19年度の給与水準は、对国家公務員の指数を下回っており、適切なものであると認識している。	
	【累積欠損額について】 「累積欠損額0円(平成18年度決算)」 【検証結果】 非該当	
講ずる措置	国家公務員の給与を考慮して、平成18年4月から俸給の水準を全体として平均4.8%引き下げた。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めたい。	

総人件費について

区 分	当年度 (平成19年度)	前年度 (平成18年度)	比較増 減	中期目標期間開始時 (平成18年度)からの増 減
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 1,023,416	千円 1,016,684	千円 (%) 6,732 (0.7)	千円 (%) 6,732 (0.7)
退職手当支給額 (B)	千円 124,174	千円 41,021	千円 (%) 83,153 (202.7)	千円 (%) 83,153 (202.7)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 296,041	千円 266,638	千円 (%) 29,403 (11.0)	千円 (%) 29,403 (11.0)
福利厚生費 (D)	千円 118,368	千円 122,443	千円 (%) 4,075 (3.3)	千円 (%) 4,075 (3.3)
最広義人件費 (A + B + C + D)	千円 1,561,999	千円 1,446,786	千円 (%) 115,213 (8.0)	千円 (%) 115,213 (8.0)

総人件費について参考となる事項

・「給与、報酬等支給総額」については、人事異動に伴う後任不補充(欠員)等による人件費の減少がある一方で、国家公務員の給与を考慮して給与規則を改正した結果、一部増額の改定となったため、前年度と比較して0.7%微増した。

また、「最広義人件費」については、労働保険にかかる負担分が減少したため福利厚生費が減少した一方で、団塊世代の定年退職等により、退職手当支給額が前年度と比較して202.7%増加した結果、8.0%増加した。

・行革推進法、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組

中期目標において、平成18年度から5年間、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに、国家公務員の給与と構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進めることとしている。

中期計画において、人件費については、退職手当、福利厚生費及び今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分を除き、平成22年度において、平成17年度予算額(1,074,071千円)に比較して、5%以上削減することとしている。

総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成17年 度)	平成18 年度	平成19 年度	平成20 年度	平成21 年度	平成22 年度
給与、報酬等支給総額 (千円)	1,016,475	1,016,684	1,023,416			
人件費削減率 (%)		0.0	0.7			
人件費削減率(補正值) (%)		0.0	0.0			

注:「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。

法人が必要と認める事項

特になし